

発行にあたって

日清オイリオグループでは、昨年まで「環境報告書」を発行し、植物資源を活用する企業として地球環境問題への取り組みや考え方についてご報告してまいりました。

このたび日清オイリオグループは、経営理念や社会へのコアプロミスの観点からも、環境の側面だけでなく、広く社会的および経済的な側面において日頃から積み重ねてきた取り組みについてもご報告することが、企業が社会に対して果たすべき責任（CSR）に結びつくものであると考え、その活動を「CSR報告書」としてまとめることにいたしました。今回はその第1号になります。

編集方針

●目的

この報告書は、お客様、取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、社会・環境など、日清オイリオグループを支えてくださるさまざまなステークホルダーの皆様へ、当社が社会的責任についてどう考え、どのような取り組みをしているのかについてご報告することを目的としています。

●構成

この報告書は、日清オイリオグループの事業内容等についてご紹介したあと、特集として、当社が力を入れている中鎖脂肪酸関連のさまざまな取り組み、ならびに海外での事業展開について取り上げています。また、当社が掲げるCSRのテーマや推進体制、ステークホルダーごとの取り組み内容をご紹介します。

●報告範囲

パフォーマンスデータについては、日清オイリオグループ株式会社を報告対象範囲としておりますが、CSRに関する取り組みについては、海外を含むグループ企業の活動も掲載しております。

●報告対象期間

2005年4月1日～2006年3月31日

*一部、これ以外の期間における取り組みが含まれる場合があります。

●参考ガイドライン

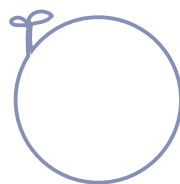
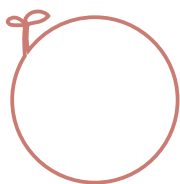
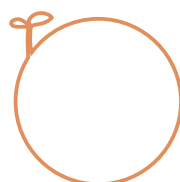
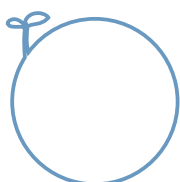
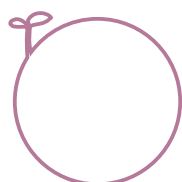
この報告書は、GRI*の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」、環境省「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」、「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン（2002年度版）」を参考に作成しております。

*Global Reporting Initiative：CSR報告書のガイドライン作りを使命とするNGOで、オランダに本部を置き、UNEP（国連環境計画）の公認協力機関です。

●発行

2006年6月

contents



発行にあたって／編集方針	1	お客様とともに	21
トップコミットメント	3	● 品質を向上するための取り組み	21
経営理念	5	● 情報セキュリティの取り組み	25
私たちのCSRとは	6	取引先様とともに	26
会社概要	7	● より良い商品づくりのための取り組み	
事業領域と商品	8	株主・投資家様とともに	27
		● 適切な情報開示の取り組み	
特集1		従業員とともに	29
中鎖脂肪酸を通じた社会貢献	11	● 人のチカラを引き出すための取り組み	29
		● 安全で働きやすい職場づくりの取り組み	31
特集2		社会のために	33
海外への事業展開	15	● 社会とのコミュニケーション	
CSRの6つのテーマ	17	環境のために	35
コンプライアンス	18	● 環境マネジメント推進体制	35
コーポレートガバナンス	19	● 製品ができるまで	37
リスクマネジメント	20	● 環境に関わる事業・商品開発	39
		● 地球温暖化防止の取り組み	41
		● 廃棄物削減の取り組み	43
		● 管理部門での環境活動	45
		● 環境関連投資・費用・効果	46
		● 生産部門の概要	47
		CSR活動のあゆみ	49
		第三者所感／編集後記	50

日清オイリオグループのCSR

近年、企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）に対する取り組みがクローズアップされてきていますが、企業にとってのCSRは、その企業を取り巻くステークホルダーから期待されることによって、それぞれ異なってくるものだと思っています。

日清オイリオグループにおけるCSRとは、一言で言えば、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。すなわち、「顧客、株主、従業員、社会・環境」を始めとする、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、法的な責任を果たす



日清オイリオグループ株式会社
取締役社長

大 辻 一 男

ことはもちろん、安心できる・安全な商品・サービスを安定的にご提供しながら、環境問題に取り組み、社会貢献活動や情報公開を推進していくことであり、1907年の創立以来、一貫して取り組んできたことでもあります。私どもがステークホルダーとの関係を大切に、ご期待に応えてきたことで、これまで事業を展開してこられたものと考えております。

日清オイリオグループの経営理念は、企業価値を追求し、その最大化を通じて、人々や社会・経済の発展に貢献すること、「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業を展開すること、そして社会の一員としての責任ある行動を徹底することであり、この経営理念の実現そ

ものがCSRに対する取り組みに結び付くものです。私どもの主体的な取り組みにより、あらゆるステークホルダーからのご信頼やご共感をいただくことで、企業の持続的な発展と企業価値の向上を目指してまいります。

事業フィールドの広がり

日清オイリオグループは、無限に広がる「植物のチカラ」を当社独自の技術で最大限に引き出しながら、お客様が「あったらいいな」と思う商品やサービスを市場に先駆けて創り、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をご提案し、創造し続けていきたいと考えています。

例えば、中鎖脂肪酸には「体に脂肪がつきにくい」だけでなく、「エネルギーになりやすい」特長があります。私どもはここに注目して、日本オリンピック委員会のオフィシャルパートナーとして、アスリートに食生活の面からサポートを行なうなど、元気な方々により元気になっていただくご提案をする一方、高齢者や介護を必要とされる方々への栄養補給の研究を進めていくことは、日清オイリオグループのCSRの一環です。

また、私どもが事業を展開している中国を始めとする東アジアでは、今後の人口増加により、ますます食糧供給が逼迫することが予想されます。東アジアで「安心できる・安全な商品・サービス」をご提供する事業を拡大させていくことも、大事な使命と考えています。

こうした私どものCSRへの取り組みは、当社グループを取り巻く環境や、活動するフィールドの広がりによって、変化していきます。経営理念のもと、活力ある事業活動を強い責任感を持って推進していく人材を育成・確保していくための様々な施策や、株主・投資家の皆様に私たちの活動をお知らせする方法も、絶えずより良いものに変えていくことが必要です。今後とも、ステークホルダーとのコミュニケーションを強化し、ご期待に応えてまいります。

2005年度の取り組み

2005年度は、日清オイリオグループのCSR基本方針を制定し、全社的な展開や全従業員への浸透をよりスピーディに推進するため、CSR委員会を設置しました。また、CSR活動展開における主たるステークホルダーを「顧客、株主、従業員、社会・環境」と定め、これに基づき、CSRに対する6つの今日的な重点取り組みテーマとして「企業倫理、安心できる・安全な商品・サービスの安定的な提供、適切な情報開示、人材の尊重と活用、社会・環境活動、安全・防災活動」を選定しました。この6つのテーマは、当社グループの持続的発展、企業価値向上の基盤をなすもので、より戦略的なCSRへの取り組みを実践するために、当社グループらしさを意識しながら、ステークホルダーのご期待にお応えする視点で選定したものです。

もちろん、日清オイリオグループのCSRに取り組む主体は、当社グループを構成する全ての会社の役員・従業員です。全員がCSRに対する取り組みの基本方針、重点取り組みテーマを十分に認識し、一人ひとりがそれぞれの分野で積極的に社会的責任を果たしていくことが重要です。そのために、CSR



の行動指針として位置付けた「日清オイリオグループ行動規範」の小冊子を常に全員が携帯し、CSRを意識した活動を行うように努めてまいります。

今までも、これからも

2007年3月に創立100周年を迎える日清オイリオグループは、今までもあらゆるステークホルダーとの関わりを密にしながら、企業の社会的責任を果たしてまいりました。

日清オイリオグループのCSRの取り組みは、体系化されてからも歴史が浅く、まだまだ不十分であると認識しております。これからも、さまざまなステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、CSRを基軸とした経営を推進してまいります。現状での取り組みの進捗状況について本レポートを作成し、ご報告申し上げます。皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただくとともに、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日清オイリオグループの経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

私たちは、顧客、株主、従業員、社会・環境にとって存在価値のある企業グループとして、人々の幸せを実現するとともに、社会や経済の発展に貢献し続けていくことを使命と考えています。そのために、これまで永年培ってきた植物油脂をはじめとする食に関わる技術をベースに「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとして、新たな価値の創造と社会への提供を通じて絶えず発展・進化していく企業グループであり続けます。また、地球環境問題への主体的な取り組み、企業倫理・法令遵守等を通じて、社会の一員としての責任を全うしていきます。

日清オイリオグループのコアプロミス

21世紀を迎える日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造する企業として力強いスタートを切ります。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続けることを約束します。

中期経営計画 「AHEAD」

日清オイリオグループは、2004年4月から「常に前進する企業グループでありたい」という願いをこめて、中期経営計画「AHEAD」をスタートさせました。2年目にあたる2005年度、業績は目標を上回るペースで順調に推移しており、現在は計画の達成に向けて仕上げの段階に入っています。

Ambitious

- 強い意志
厳しい経営環境下での未曾有の危機を乗り越える強い意志を持つ

Health

- 健康な生活
健康で幸福な美しい生活を提案・創造する

Efficiency

- 効率性追求
伝統的製油事業を中心に、あらゆる企業活動で、徹底的な効率性を追求する

Asia

- アジアでの展開
東アジアでの新たなマーケットの獲得に加え、グローバルな競争優位性を高めるための本格的な事業展開を行う

Development

- 開発志向
商品・技術開発力の一層の強化、継続的な開発を基本とした事業展開など、開発志向による技術立脚型事業を確立する

AHEAD 2006年度達成目標 (日清オイリオグループ連結)

●売上高	2,500億円以上
●経常利益	100億円以上
●ROA	5.5%以上
●ROE	6.0%以上
●有利子負債営業CF倍率	1.7倍以下

あらゆるステークホルダーからの期待に応えること。 それが私たちのCSRです。

私たち日清オイリオグループが、その経営理念を実現する上では、私たちを取り巻くあらゆるステークホルダーの皆様との密接な関係を構築し、さまざまな責任を全うすることによって、その多様なニーズにお応えしていかなければなりません。すなわち、経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様からの期待と信頼にお応えすることこそ、私たちにとってのCSRなのです。

CSRに対する取り組みの基本方針

日清オイリオグループは、経営理念の実現によってあらゆるステークホルダーの期待に応えることがCSR活動そのものであるとの考えに立って、2005年6月、以下の通りCSRに対する取り組みの基本方針を定め、「顧客、株主、従業員、社会・環境」を主たるステークホルダーとして明確化いたしました。

1) 意義・目的

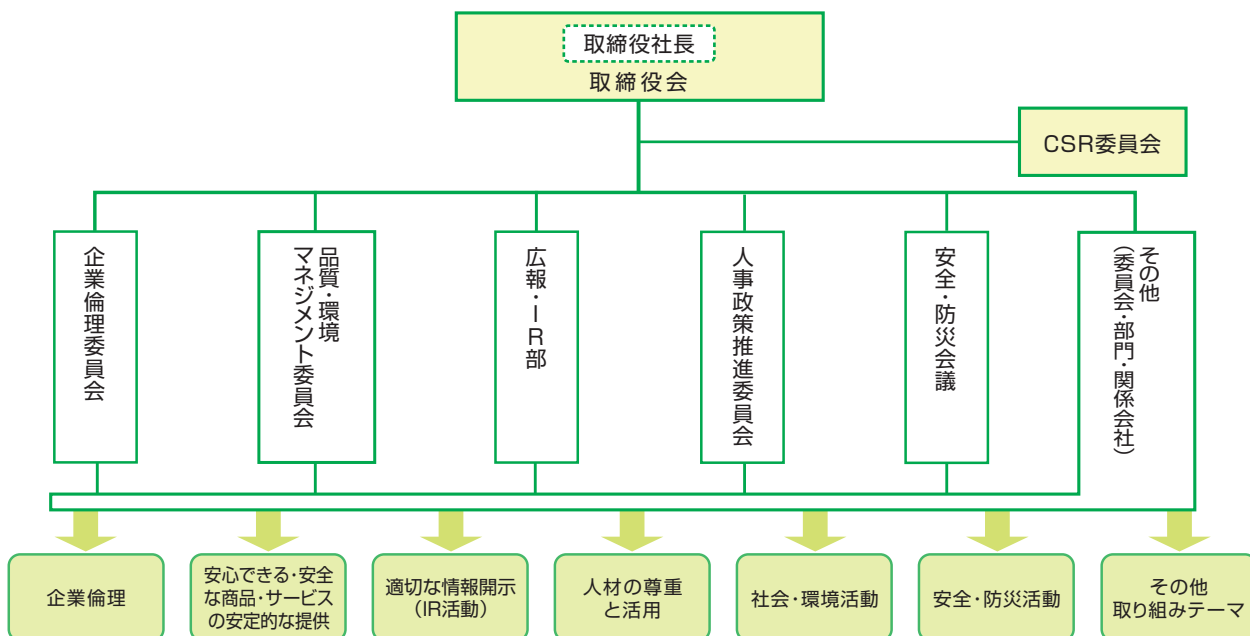
- CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安心できる・安全な商品・サービスの安定的な提供、環境への取り組み、社会貢献、情報公開など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」である。
- 日清オイリオグループにとって、その経営理念である「企業価値の追求とその最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献」、「『おいしさ・健康・美』の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求」、「社会の一員としての責任ある行動の徹底」の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものである。
- 日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指す。

2) 行動指針

- 「日清オイリオグループ行動規範」をCSRに対する取り組みの行動指針として位置づけ、日清オイリオグループを構成する全員の主体的な取り組みを推進する。

CSRの推進体制

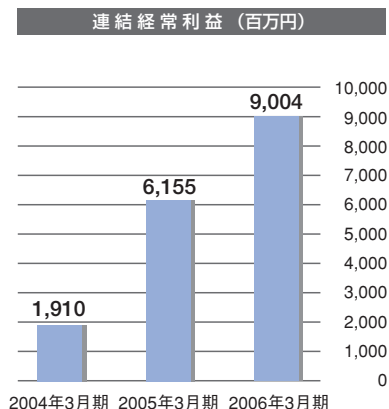
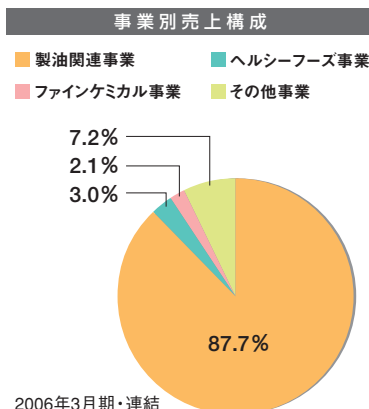
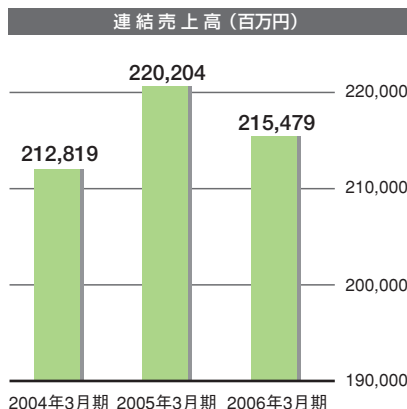
この基本方針を立案・統括管理しているのが、2005年7月、取締役会に直結する会議体として設置された「CSR委員会」です。各部門、関係会社との連携のもと、CSR活動を全社的に展開し、全従業員へのスピーディな浸透を図ることがその役割です。



会社概要

- 商号** / 日清オイリオグループ株式会社
- 本社** / 〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
/ 電話 (03) 3206-5005
- 代表者** / 取締役会長 秋谷 淨恵
取締役社長 大込 一男
- 創立** / 1907年(明治40年)3月7日
- 資本金** / 16,332百万円(2006年3月31日現在)
- 売上高** / 2,154億7千9百万円(2006年3月期・連結)
- 経常利益** / 9,004百万円(2006年3月期・連結)
- 従業員数** / 2,551名(2006年3月31日現在・連結)
- 事業所** / 本社、大阪事業場、横須賀事業場(研究所・食品開発センター)、横浜磯子事業場(横浜磯子工場)、名古屋工場、堺事業場、水島工場、札幌支店、仙台支店、関東信越支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、郡山営業所、新潟営業所、長野営業所、埼玉営業所、西首都圏営業所、横浜営業所、静岡営業所、北陸営業所、四国営業所、岡山営業所、鹿児島営業所、横浜神奈川事業所(2006年3月31日現在)
- 主なグループ企業** / 攝津製油(株)、日清商事(株)、日清物流(株)、(株)NSP、(株)マーケティングフォースジャパン、日清プラントエンジニアリング(株)、(株)ゴルフジョイ、日清サイエンス(株)、日清マリンテック(株)、日清コスモフーズ(株)、大連日清製油有限公司、上海日清油脂有限公司、SOUTHERN NISSHIN BIO-TECH SDN.BHD、日清奧利友(中国)投資有限公司、INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN.BHD、日清ファイナンス(株)、ヤマキウ運輸(株)、陽興エンジニアリング(株)、和弘食品(株)、(株)テンコーポレーション、幸商事(株)、(株)日清商会、アイロム製薬(株)、ニッコー運輸(株)、統清股份有限公司、張家港統清食品有限公司、日清オイリオ・ビジネススタッフ(株) (2006年4月1日現在)
- 統合・合併の経緯** / 2002年10月に日清製油(株)、リノール油脂(株)、ニッコー製油(株)の3社が経営統合し、日清オイリオグループ誕生。
2004年7月に日清オイリオグループ(株)、日清オイリオ(株)、リノール油脂(株)、ニッコー製油(株)の4社が合併して、新生・日清オイリオグループ(株)がスタート。

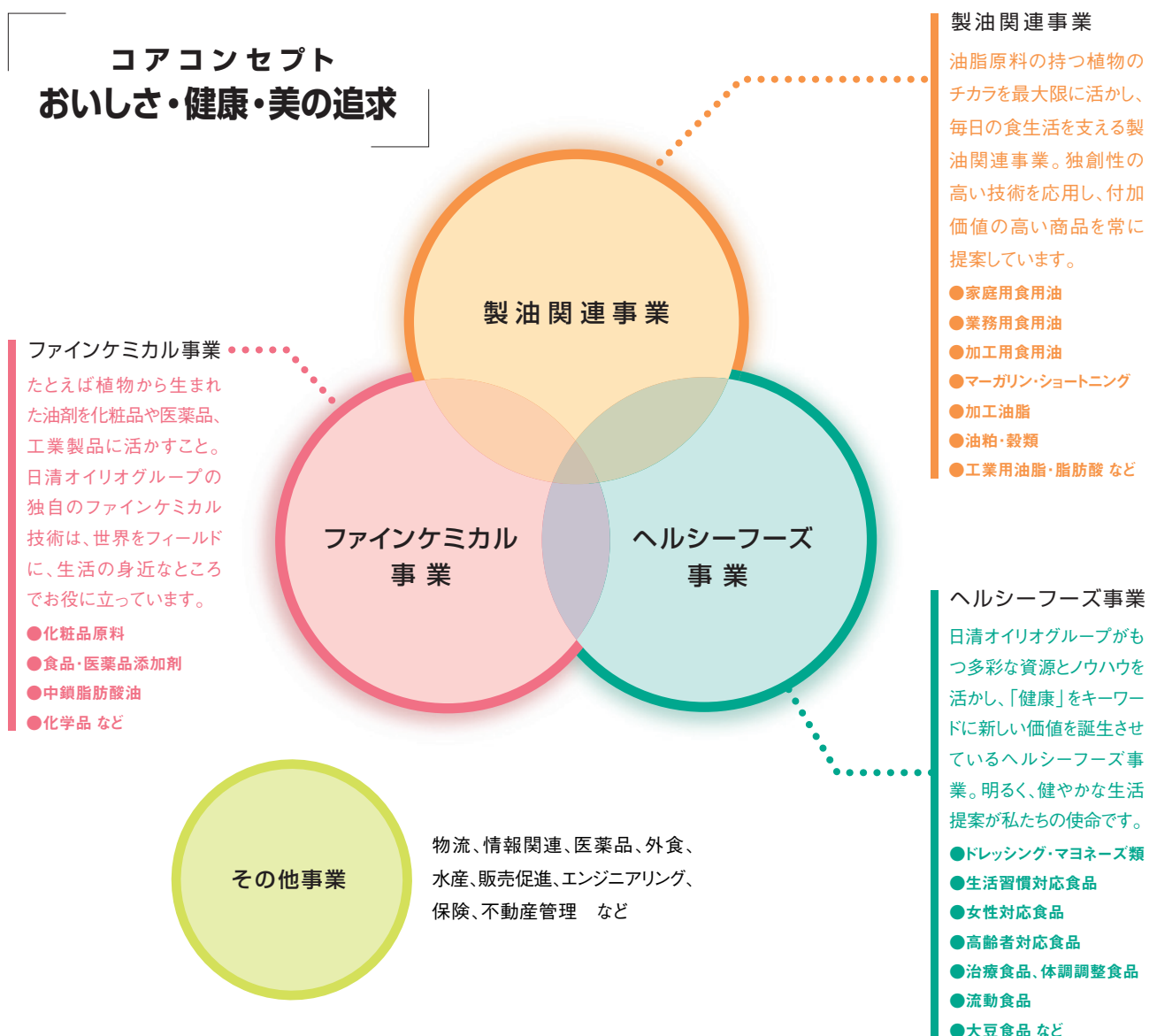
* 会社概要の詳細は、ホームページでご覧になれます。
<http://www.nissin-oillio.com/company>



「植物のチカラ」を最大限に引き出し、「おいしさ・健康・美」を追求するため、幅広い領域で事業を展開しています。

私たちは、1907年の創立以来、自然の恵みである「植物のチカラ」を最大限に活かし、「おいしさ・健康・美」にこだわり、さまざまな商品やサービスを他社に先駆けて市場へ提供してまいりました。1924年に日本で初めてのサラダ油「日清サラダ油」を発売したのを皮切りに、持ちやすい丸缶のサラダ油、油の鮮度を保つ「フレッシュパック」製法、使いやすい取っ手付きポリ容器、ユーザー様の利便性を高めたミニタンクシステムやピロー包装、今では家庭で最も多く使われているキャノーラ油などを提案してまいりました。製油関連事業では、コスト競争力の強化とともに高い技術力を活かした高付加価値商品の開発、さらには東アジアを中心とするグローバルな事業展開を推進しています。また、健康機能食品分野や治療食品分野などで新しい価値を追求するヘルシーフーズ事業、植物資源を活用し、さまざまな産業分野に素材・添加剤を提供するファインケミカル事業においても、さらなる事業規模拡大を図っています。私たちは、今後も幅広い領域で「技術立脚型」事業を展開してまいります。

コアコンセプト おいしさ・健康・美の追求



製油関連事業

家庭用食用油

1924（大正13）年、日本初のサラダ油発売以来、常に時代のニーズにお応えし、日本の食生活の質向上に貢献してきました。現在では、「日清キャノーラ油」「日清キャノーラ油ヘルシーライト」「BOSCOオリーブオイル」「日清純正香りひき立つごま油」などの他、厚生労働省許可の特定保健用食品として、体に脂肪が付きにくい「ヘルシーレッタ」、コレステロールを下げる「ヘルシーコレステ」の健康オイル2種類を発売、食用油市場に「健康」という新しい価値を創造しました。



業務用・加工用食用油

加工食品メーカーや外食産業、スーパーやコンビニエンスストアの惣菜・弁当といった中食市場など、さまざまなフィールドに業務用・加工用食用油を提供しています。高い技術力により、油っこくない、においが少ないなどの特長を持った高付加価値商品を開発、それぞれの機能を生かした調理法や加工法、時には調理機器も含めた提案をする一方、食品企業とのコラボレーションによる商品開発も積極的に展開、変化する市場のニーズにお応えしています。



マーガリン・ショートニング

純植物油脂をベースにしたマーガリンやショートニングを展開、細かなニーズに合わせて「おいしさ」づくりに貢献する約200商品を提供し、製菓・製パンメーカーからも高い評価をいただいています。



油粕・食品大豆

「LANDMARK」などのブランドで販売する食品大豆は、豆腐、油揚げ、味噌など日本の伝統的食糧の原料として、そのおいさを支えています。また、搾油後の脱脂大豆は家畜用の配合飼料に、菜種油粕は配合飼料の他、肥料として古くから利用されています。



工業用油脂

国内トップシェアの亜麻仁油（フラックス油）は、食用油以外にも、塗料や印刷インキなど工業分野で広く活用されています。また、従来の鉱物油ではなく植物油をベースにしたアスファルトの付着防止剤「エコメイトAR-1」は、環境負荷の少ない製品として高く評価されています。



ヘルシーフーズ事業

ドレッシングなど

お客様の声を敏感にキャッチし、コレステロールゼロのマヨネーズタイプ調味料「日清マヨドレ」、「ヘルシーリセッタ」を使用した「リセッタドレッシングソース」、植物のチカラを引き出した発芽大豆豆乳など、おいしさと健康への配慮を両立した加工食品を開発、製油メーカーならではの技術とノウハウを活かしています。



生活習慣対応食品など

健康オイルのみならず、血圧が高めの方向けの「マリンペプチド」、食後の血糖値を抑える「食物繊維入り緑茶」といった生活習慣対応食品、治療食品、嚥下障害対応食品など、食と医の中間領域においても、持てる資源とノウハウを投入しています。



大豆食品

「大豆のおいしさ、栄養、物性機能」を引き出し、お客様のニーズにお応えする大豆蛋白、豆腐などの大豆食品を提供しています。



ファインケミカル事業

化粧品原料・食品、医薬品添加剤・中鎖脂肪酸油など

植物資源を活用した独自のファインケミカル事業は、現在、生産拠点を海外にまで広げ、化粧品をはじめ、食品、医薬品など、さまざまな産業分野に素材・添加剤を提供し、暮らしの身近なところでお役に立っています。



中鎖脂肪酸を通じた社会貢献

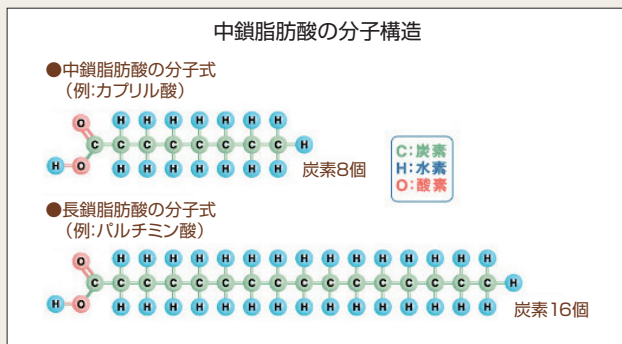
日清オイリオグループの技術力を活かし、
中鎖脂肪酸の新たな可能性を追求。

健康オイルとしておなじみの「ヘルシーリセット」。「体に脂肪がつきにくい」秘密は天然の植物成分「中鎖脂肪酸」にあります。私たちは、この中鎖脂肪酸の持つ大きな力を引き出し、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)のためにもっと役立てていただけるよう、さまざまな取り組みを進めています。ここでは、その取り組み内容をご紹介します。

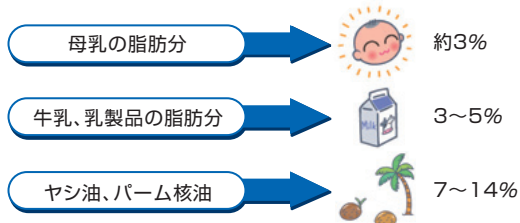
中鎖脂肪酸のチカラ

中鎖脂肪酸とは何か

中鎖脂肪酸は、炭素の数が8~10個と、普通の植物油に含まれる脂肪酸(長鎖脂肪酸)の炭素数に比べて約半分程度の短い飽和脂肪酸で、母乳に約3%、牛乳、乳製品の脂肪分に3~5%、ヤシ油、パーム核油などにも7~14%程度含まれる、体にやさしい安心な天然成分です。その最大の特長は、食べた後エネルギーになりやすいこと。普通の植物油に含まれる脂肪酸は、体に吸収された後、リンパ管、静脈を通して脂肪組織、筋肉、肝臓に運ばれて蓄積され、必要に応じて分解されエネルギーとなります。それに比べて、中鎖脂肪酸は消化吸収が約4倍速く、しかも門脈を経て直接肝臓に運ばれ、すみやかに分解されてエネルギーとなります。そのため脂肪として蓄積しにくいのです。



中鎖脂肪酸を含む一般食品



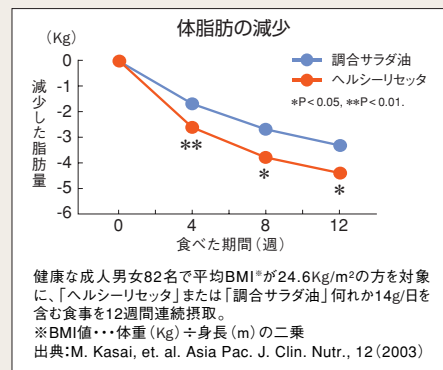
中鎖脂肪酸は天然に多く含まれる成分で、長い食経験を持つ

エネルギーになりやすいという特長

中鎖脂肪酸のエネルギーになりやすい特長は、既に1960年代から医療現場で利用されています。効率の良いエネルギー供給源であることを利用して、手術後や未熟児のエネルギー補給に用いられたり、普通の脂肪酸(長鎖脂肪酸)との代謝経路の違いに着目し、高脂血症患者のエネルギー補給などにも利用されてきました。

体に脂肪がつきにくいという特長

日清オイリオグループは、エネルギーになりやすいという特長から、脂肪が蓄積しにくい効果に着目し、食用油「ヘルシーリセット」をつくりました。「ヘルシーリセット」は、菜種油をベースとし、天然の植物成分である中鎖脂肪酸の働きで体に脂肪がつきにくい健康オイルとして特定保健用食品の許可を厚生労働省から得ました。



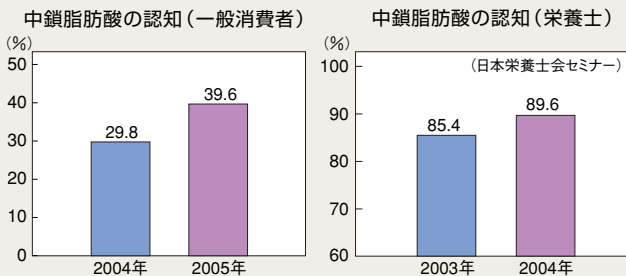
特長を活かした中鎖脂肪酸の可能性

エネルギーになりやすく脂肪がつきにくい。日清オイリオグループでは、中鎖脂肪酸のこうした特長を、スポーツ選手や低栄養状態が懸念される高齢者などのエネルギー補給に活用できないだろうかと考えました。中鎖脂肪酸を利用することで、スポーツ選手のオフシーズンの体づくりに役立てたり、食が細って十分な栄養摂取ができなくなった高齢者の方々に少量で多くのエネルギーを供給することで、健康維持のお手伝いができます。このように、中鎖脂肪酸には人々の生活を豊かにするチカラが秘められているのです。

中鎖脂肪酸の価値を知っていただくこと それは私たちの社会貢献の一環でもあります。

中鎖脂肪酸のチカラを知っていただくために

このように中鎖脂肪酸は母乳にも含まれ、従来から医療現場でも広く利用されてきた、科学的裏付けのある安全性の高い素材であり、人々の健康をさらに高めていく大きな可能性を持っています。日清オイリオグループは、今まであまり知られていなかった中鎖脂肪酸の新たな栄養機能を明らかにしながら、多様な分野でお役に立てていただけるよう、いろいろな場面で、その価値をお知らせする取り組みを積極的に展開しています。こうした活動により、中鎖脂肪酸の認知度は著るに向上しています。



日本栄養士会セミナー



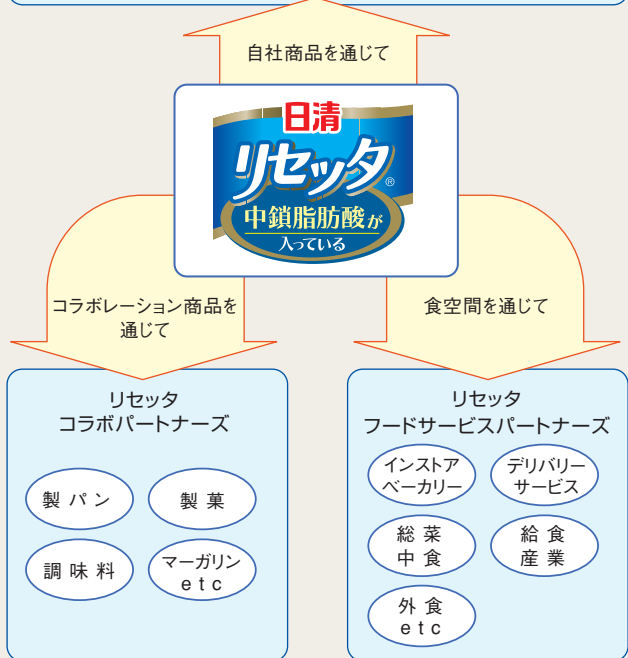
中鎖脂肪酸を知っていただくための冊子

2005年度に実施した生活習慣病予防のための食生活セミナー (抜粋)

実施日	会場	参加人数
9月11日	広島県広島市	86名
9月17日	沖縄県沖縄市	176名
9月24日	福島県郡山市	65名
10月1日	香川県高松市	120名
10月8日	静岡県浜松市	124名
10月29日	北海道札幌市	131名
11月2日	神奈川県鎌倉市	116名
11月26日	京都府舞鶴市	92名
2月22日	岡山県岡山市	133名

食品分野での取り組み

中鎖脂肪酸の機能とリセッタブランドの価値への共感をいただいているさまざまな食品企業の皆様とともに、「ヘルシーリセッタ」や「リセッタソフト」を活用したコラボレーション商品の開発を行っています。



医療・健康維持分野での取り組み

中鎖脂肪酸は、従来から未熟児や慢性腎不全患者のエネルギー補給、外科手術後の早期回復などに利用されています。エネルギーになりやすいという特長を、高齢者の栄養補給や低栄養状態の改善、介護予防のための商品開発に力を入れています。



日清サイエンス(株) 中鎖脂肪酸商品

中鎖脂肪酸を通じた社会貢献

アスリートが、そのチカラを活かせる環境づくり。
中鎖脂肪酸にはそんなチカラもあります。

スポーツ分野での取り組み

食べた後、エネルギーになりやすい中鎖脂肪酸を、アスリートの疲労回復や持久力の向上、脂肪と筋肉のバランス向上に役立てていただくため、競技団体との共同研究を行っています。また、スポーツ栄養の視点でアスリートを食事の面からも支えるなどのスポーツ振興事業を行い、トップアスリートだけでなくスポーツの次代を担うジュニアアスリート育成のための栄養サポートにも注力しています。

2005年度は、(財)日本オリンピック委員会(JOC)のオフィシャルパートナー協賛を行い、トップアスリートを始めとするスポーツにおける栄養改善への取り組みを開始しました。

日本レスリング協会との共同研究では、中鎖脂肪酸の新たな可能性に関する学会発表を実施するに至りました。

また、2006年1月より、(財)日本サッカー協会(JFA)に対し、将来のサッカーアスリートの育成を食品メーカーとして支援するための積極的提案を開始しています。

スポーツ振興活動

スポーツ振興事業への取り組み

エネルギーになりやすい
消化吸収が良い

《中鎖脂肪酸の可能性追求》
脂肪と筋肉のバランス維持
持久力向上・疲労回復

JOCオフィシャルパートナー協賛

日本レスリング協会との共同研究

JFAとの取り組み

中鎖脂肪酸の可能性研究内容

- 脂肪と筋肉のバランス維持
 - ・オンシーズン、オフシーズンの食事において、通常の油に代えて毎日中鎖脂肪酸を摂取することで体脂肪を適正に維持。また筋肉を減らすことなく体脂肪を減少させる。
 - ・減量やエネルギー消費が大きい場合など、筋肉が減少しがちな場面で中鎖脂肪酸を摂取することで筋肉量を維持管理する。
- 持久力と疲労回復力向上
 - ・中鎖脂肪酸は、糖質と一緒に摂取するとすみやかにエネルギーとなり、糖質はパフォーマンスの源となる。
 - ・トレーニング後に摂取するとグリコーゲンがすみやかに蓄えられ、疲労回復に役立つ。またトレーニング前、あるいは実施中に摂取するとグリコーゲンの減少が抑えられる。

JOCと連携して選手を支援

2005年7月、日清オイリオグループは(財)日本オリンピック委員会(JOC)と「JOCオフィシャルパートナーシッププログラム」食用油脂関連商品カテゴリーにおいて協賛する契約を結び、JOCオフィシャルパートナーとして「第20回オリンピック冬季競技大会(2006年/トリノ)」に参加する日本代表選手団への商品提供など、食の面からもサポートしました。

また、フリースタイルスキーの上村愛子選手とスポンサーシップ契約を結び、スポーツ栄養の視点から、常に競技に最高の状態で臨めるように食生活面でのサポートを行いました。



秋谷社長(現会長)記者会見

美味しく食べて、美しく燃えろ、ニッポン。



日清オイリオグループは食用油脂関連商品のJOCオフィシャルパートナーとしてオリンピック日本代表を応援します。

JOCへの協賛にあたって掲げた『Beautiful ENERGY 美味しく食べて、美しく燃えろ、ニッポン。』のスローガンには、中鎖脂肪酸の持つ特長をスポーツ振興に活かしたいという思いが込められています。現在は「第29回オリンピック夏季競技大会(2008年/北京)」に向けて新たな取り組みを開始しています。



JOCとの協同による日清オイリオグループの具体的な取り組み内容は以下の通りです。

- ・オリンピックムーブメントの推進
- ・選手や競技団体への商品提供
- ・スポーツ栄養の視点での食生活サポート
- ・JOCと協力して、選手にとっての中鎖脂肪酸の可能性を研究

高齢者の食生活を改善し、健康維持に貢献する。 中鎖脂肪酸にはそんなチカラもあります。

高齢者の食生活改善

消化吸収が早く、すみやかにエネルギーになり、高カロリーでタンパク質の消費節約作用がある中鎖脂肪酸は、高齢者の皆様の食生活改善に貢献することができます。

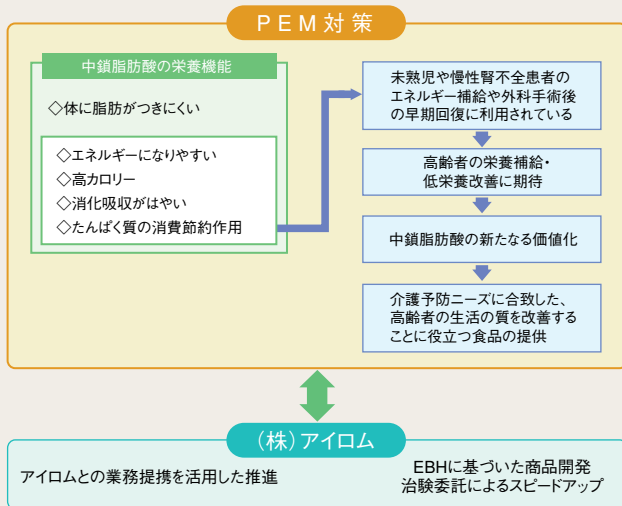
高齢になると食が細り、十分な栄養摂取ができず、ある種の飢餓状態に陥ってしまう例も少なくありません。こうしたケースでも、少量で大きなエネルギーを供給できる中鎖脂肪酸を利用することで、健康の維持に貢献できると考えられます。また、通常のエネルギー源である炭水化物と違って血糖値を上げない点でも、理想的なエネルギー源になる可能性があります。

日清オイリオグループでは、こうした高齢者の低栄養状態（PEM*）を改善し、生活の質を向上して介護予防のニーズにお応えしていきます。

*PEM:Protein-Energy Malnutritionの略。
「タンパク質・エネルギーの低栄養状態」を指します。

医療～健康維持の領域における取り組み

介護予防領域における中鎖脂肪酸の価値化



アイロム社との業務提携

中鎖脂肪酸を始めとして食と医の融合を推進するため、日清オイリオグループは、2005年7月11日、治験施設支援事業を中心に医療のトータルコーディネートを推進する株式会社アイロムと包括的業務提携を行いました。同社の提携医療機関ネットワークやノウハウを活用することにより、明確な根拠に基づいたヘルスケア（EBH: Evidence Based Healthcare）の考え方に基づく商品の研究開発から販売までを効率的に行い、新商品をタイムリーに市場へ提供することができるようになりました。

「リセッタ」ブランドの海外展開

日清オイリオグループでは、中鎖脂肪酸に込めた健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)への願いを、世界的に展開しようとしています。その第一弾として、2005年9月に台湾行政院衛生署から日本の特定保健用食品に相当する「健康食品」の認可を受け、2005年12月、台湾の食品流通・小売業最大手「統一企業」との提携により「ヘルシーリセッタ」を「統一綺麗健康油」として現地のコンビニエンスストアや量販店等を通じて発売しました。台湾において「体に脂肪がつきにくい」効果を謳った商品の販売は初めてのことです。



台湾向けのリセッタ



台湾での新商品発表会

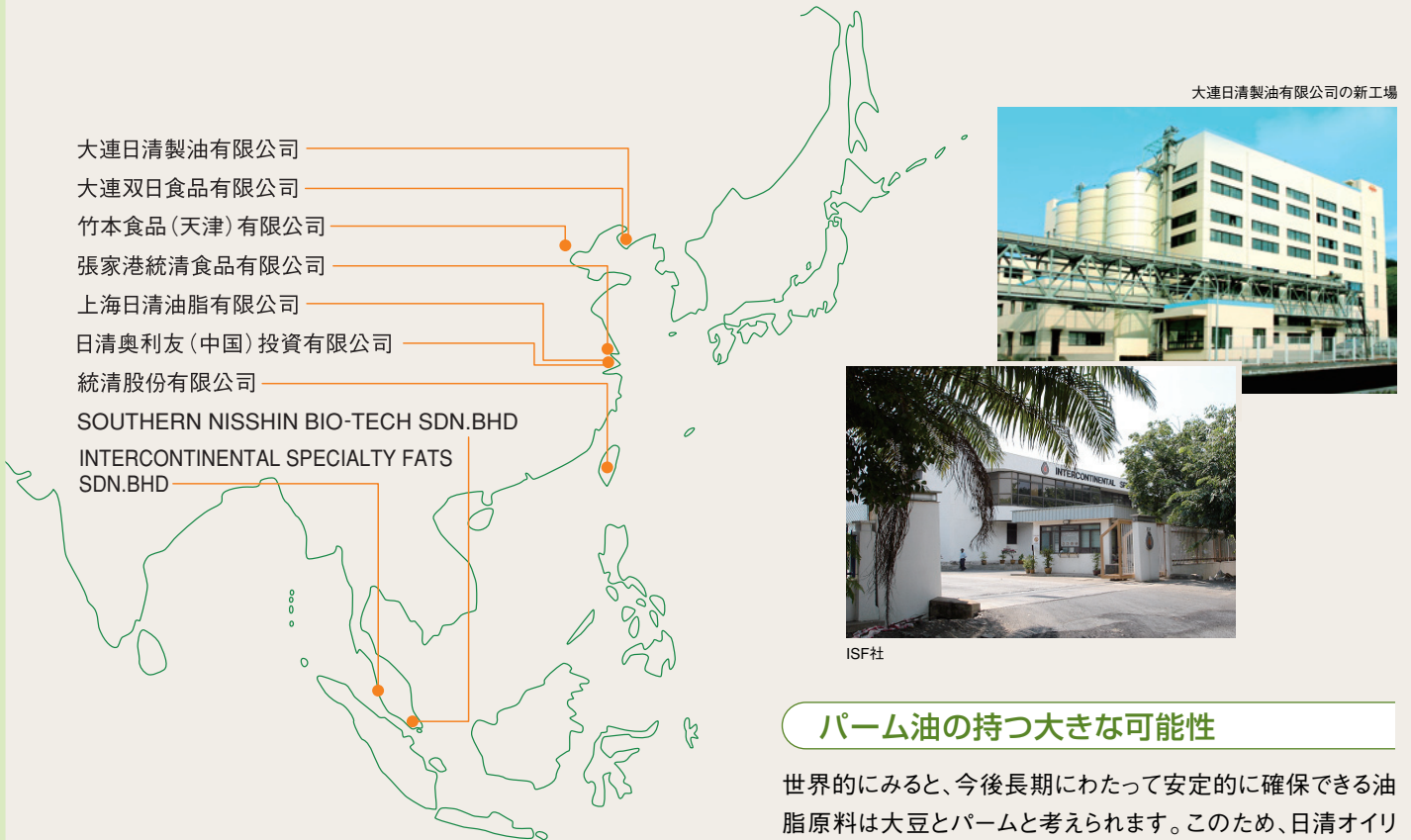
中国は人口増加、経済発展から食用油市場が拡大しています。中国には日本の特定保健用食品に相当する制度があり、法改正を経て認可が厳しくなっていますが、この認可を得ることで、この巨大市場での付加価値の高い事業展開ができるものと考えています。さらに韓国でも健康機能食品の市場は年々拡大しており、現在、その環境分析を行って進出準備に取り組んでいるところです。

一方、ヘルシー志向の高まりにより、保健効果のあるオイルへの潜在的需要がきわめて大きなアメリカ市場での発売に向けての認可申請やパートナー企業の選択作業も進めています。健康オイルに限定せず、多用途フライ用油脂などの分野も含めた事業化を計画しており、2005年1月から、事業化のスピードアップを図るべくニュージャージー州に設立した現地法人が営業活動を開始しています。

海外への事業展開

私たちがいち早く開拓した東アジア市場。
その拡大に向けて、強い信念をもって邁進しています。

私たちは、1988年、中国大連市に「大連日清製油有限公司」を設立、大豆の搾油を開始したのを皮切りに中国で次々と新会社を設立し、2003年には中国国内の事業を統括する投資会社「日清奥利友(中国)投資有限公司」を設立しました。2005年にはパーム油事業の拠点としてマレーシアにある「INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD (ISF社)」を子会社化するなど、東アジア市場での事業展開を強化しました。今後も、海外進出等による既存事業範囲の拡大を基本構想の一つに掲げ、アジア、特に中国を含む東アジア市場への展開を強力に推進してまいります。ここでは、私たちが総力を上げている東アジア事業の現状についてご紹介します。



大連日清製油有限公司の新工場稼働

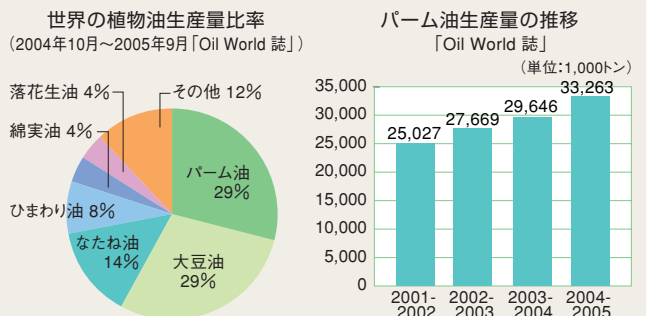
2005年3月、中国遼寧省大連開発区の北良港にて、現地法人「大連日清製油有限公司」の新工場を竣工、稼働を開始したことは、東アジアにおける競争力を高める上で大きな前進となりました。

日清オйлグループは、1988年に「大連日清製油有限公司」を設立、1990年に本格操業を開始して、高品質の「日清サラダ油」「大豆粕」などを製造・販売してきましたが、中国での食用油・油粕市場の拡大、製油環境の変化を受けて生産能力の拡大が急務となっていました。

北良地区は中国東北地方最大の食糧基地、国内輸送の重要な拠点であるだけでなく、アジア屈指の食糧輸出入・総合物流拠点です。日清オイルグループは、この地を拠点として東アジア市場へ、安心できる・安全で高付加価値な商品を安定供給していきたいと考えています。

パーム油の持つ大きな可能性

世界的にみると、今後長期にわたって安定的に確保できる油脂原料は大豆とパームと考えられます。このため、日清オイルグループでは大豆とともに柱になるパームの可能性に着目しています。2005年9月、マレーシアの「ISF社」を子会社化したことは、こうした世界のオイルバランスを見据えた中長期的事業戦略の一環です。これにより、日清オイルグループは事業基盤としてのパーム油生産設備を獲得し、エステル交換技術と油脂分別技術の融合による商品開発、双方の販売チャンネル活用によって、今後世界的に需要が伸びるとされるパーム油関連事業への本格的な展開を図ることができます。



中国でのブランドを統一

「日清奥利友（中国）投資有限公司」が中心となり、それまで各生産拠点でそれぞれ展開してきた商品ブランドを統一しました。これにより、「NISSHIN Oillio」ブランドの浸透を図り、グループ全体での企業価値の向上を目指します。また、「上海日清油脂有限公司」では、高まりつつある健康志向のもと多様で急速な市場ニーズの変化に対応し、オリーブ油、べに花油といったプレミアムオイルを次々と市場に投入しました。今後も「ヘルシーリセット」などの上市を計画しております。



中国で販売中の商品群



品質保証体制を整備

日本と同レベルの厳しい品質管理、品質保証体制を目指して、2005年10月に上海に「統括技術センター」を設立しました。「中国品質保証委員会」と連動し、中国における品質保証体制を整えました。また、当センターでは、中国市場に適した新たな調理法の開発や新商品の開発などにも積極的に取り組み、技術サポート体制を強化しています。



統括技術センター（上海市）での商品分析の様子

化粧品関連事業の海外展開

化粧品、医薬等の素材を提供するファインケミカル事業でも、6,000億円強と言われる中国の化粧品市場を重視し、現地メーカー向けを中心とした開発・生産体制の強化を進めています。2004年から「日清奥利友（中国）投資有限公司」のもとで化粧品素材の現地倉庫を設け、在庫管理を行うことで中国のお客様のご要望にすぐに対応できる体制となりました。今後は開発やリスク管理なども行っていく予定です。

大連の展覧会への参加

2005年8月13日～14日、大連市において大連市消費者協会主催の「大連安全食品展覧会」が開催されました。食品の安全の重要性を市民に知ってもらうために市が行っているこの活動に、「大連日清製油」は、油脂分野の安全食品企業として唯一指名を受けて参加、日清オイリオグループ商品の品質をアピールしました。また、10月には、大連の有名ブランド食品の展覧会「大連国際名牌食品展覧会」にも、油脂メーカーとしては同社のみが参加しました。

2006年3月15日～19日には、「第4回著名ブランド大連“3.15”国際消費品博覧会」にも出展しました。“ブランド都市”を目指して大連市消費者協会が主催するこの催しは参加企業数約370社（うち食品関連は約100社）という大規模なものです。



第5回ASDAC国際会議の展示会に出展

2005年8月31日～9月1日、東京・都市センターホテルで開催されたASDAC (Asia Soap & Detergent Association Conference) の展示ホールにて、化粧品原料を展示し、東アジアをはじめ諸外国の関係者に向けて日清オイリオグループ独自の技術力をアピールしました。



私たちのCSRへの取り組みと6つのテーマ

日清オイリオグループは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「顧客、株主、従業員、社会・環境」の4つの主たるステークホルダーの期待にお応えするために、以下のように、6つの重点取り組みテーマを選定し、取り組みの概念図を明らかにしています。ここでは、それぞれのテーマと全体の概念図についてご報告いたします。

日清オイリオグループ 6つのCSRテーマ

■ 企業倫理

公私を問わず、社会の一員として、法令及び社会倫理を遵守した活動を徹底し、CSRを推進する企業体質を維持・強化します。

■ 安心できる・安全な商品・サービスの安定的な提供

商品・サービスの安全性を最優先とし、そのための供給・管理体制の徹底と更なる改善に努めることにより、お客様の満足と信頼を獲得します。

■ 適切な情報開示 (IR活動)

日清オイリオグループの活動・組織・財務状況・業績などの開示のみならず、将来の成長戦略やCSRに対する取り組み等の経営情報を常にタイムリーに開示することにより、経営の透明性を高めます。

■ 人材の尊重と活用

従業員一人ひとりの個性・適性を尊重し、常に公正に評価・処遇し、それぞれの能力が十分に発揮できるよう努めることにより、活力ある企業体質を構築します。

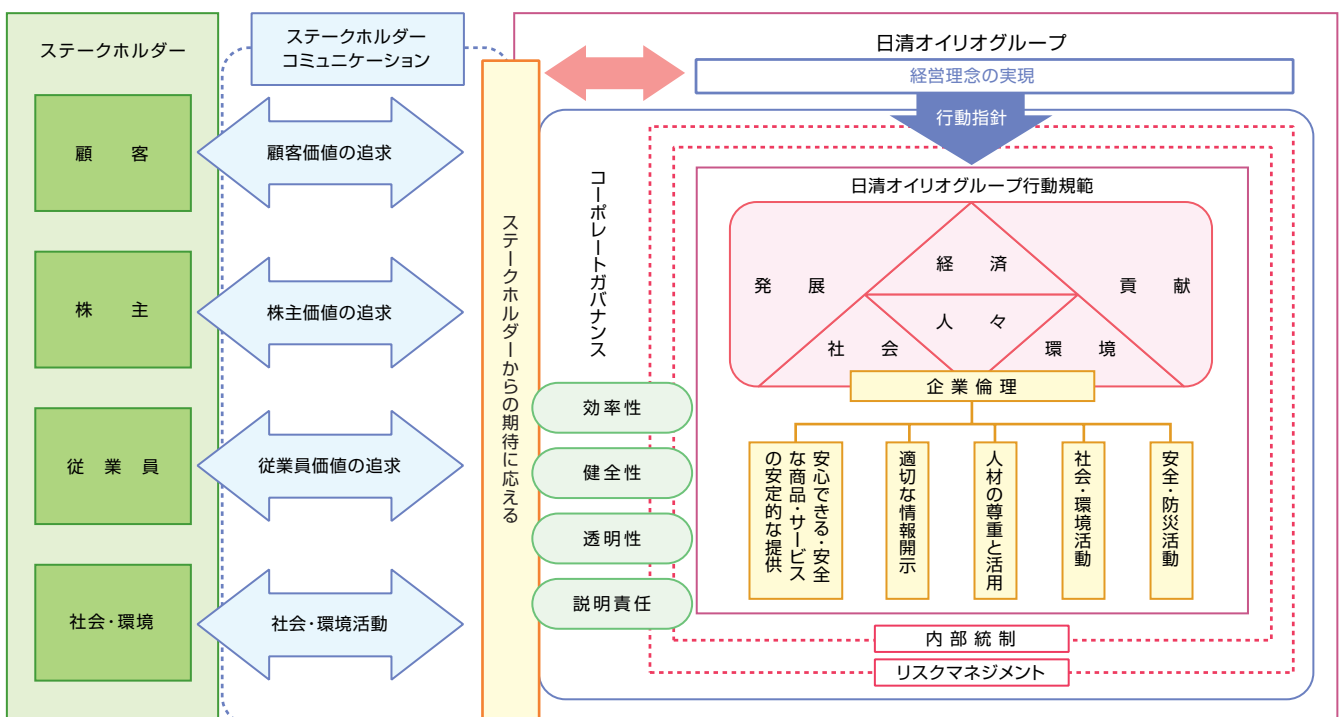
■ 社会・環境活動

地域社会の活動、災害時の救援・協力活動など、良き企業市民として広く社会に資する活動に努めるとともに、資源循環型社会の構築を目指した環境負荷低減活動の実践と積極的な情報開示を推進します。

■ 安全・防災活動

常に安全衛生の維持・向上に努め、安全で働きやすい職場環境の整備に努めることにより、従業員の心と体の健康を維持するとともに、安定操業の確保や地域社会の安全・安心の強化など、企業としての社会的信用の維持・向上を推進します。

■ 日清オイリオグループCSRに対する取り組みの概念図



全役員、全従業員が「行動規範」を遵守、実践する決意をもって行動しています。

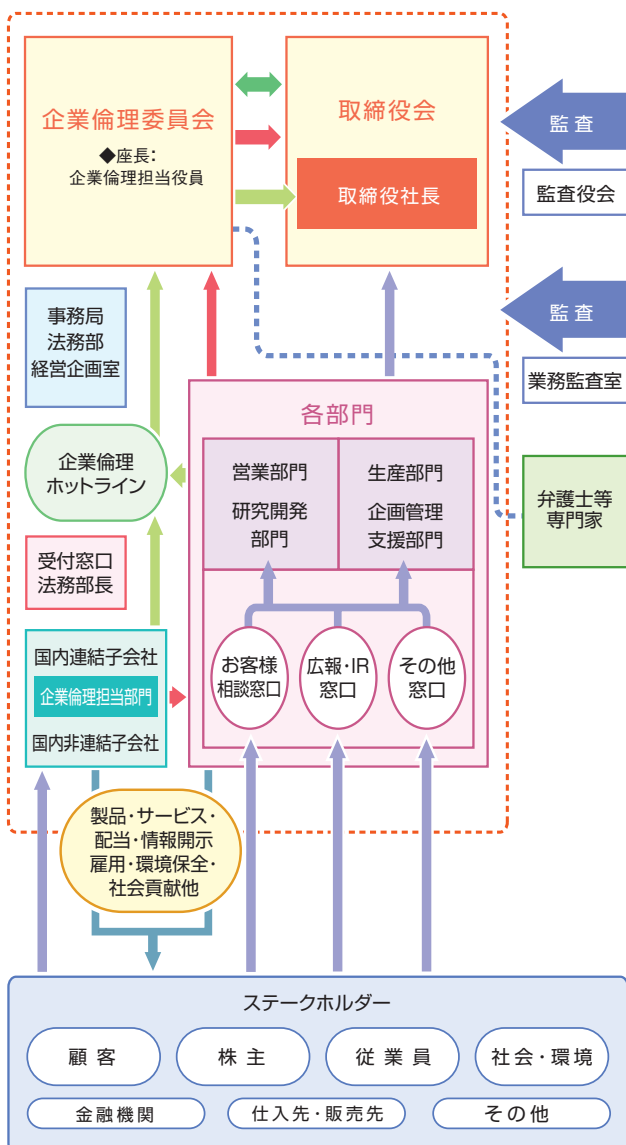
企業の倫理体制に対してかつてなく厳しい目が向けられている今日、私たちは「日清オイリオグループ行動規範」を経営理念実現のための行動指針とするとともに、CSR活動の行動指針としても位置づけています。日清オイリオグループの全役員、全従業員は、この行動規範の目的を十分理解し、食用油のリーディングカンパニーにふさわしい責任ある行動を貫く決意を新たにしています。

企業倫理体制構築の歩み

日清オイリオグループは、2002年10月に「日清オイリオグループ行動規範」を制定しています。2003年には、全社的な企業倫理体制の構築・強化を目的とする「企業倫理委員会」を設置、各部門との緊密な連携のもと、「日清オイリオグループ行動規範」を周知徹底、実践を推進してきました。

■ 日清オイリオグループ企業倫理体制概念図

企業倫理報告 → 各ステークホルダーからの声 → ホットライン報告 → 諮問・答申



2005年度の主な取り組み

日清オイリオグループは、企業倫理委員会を中心に、以下のように、コンプライアンス徹底のためのより主体的な取り組みを行っています。

■ 行動規範の適用範囲拡大

2005年度における企業倫理委員会の主な活動としては、「日清オイリオグループ行動規範」の対象企業を国内子会社にまで拡大し、周知徹底を図りました。

■ 企業倫理ホットライン拡充

日清オイリオグループは、企業倫理・法令遵守に関する問題提起(内部不正情報)、業務活動における企業倫理・法令遵守に関する疑問・相談、「日清オイリオグループ行動規範」に対する問題提起や意見を受け付ける「日清オイリオグループ企業倫理ホットライン」を設置しております。2005年度は、適用対象を国内子会社の従業員まで拡大しました。

■ 行動規範の改訂

「日清オイリオグループ行動規範」については、2002年の制定以来、ホームページで公開するとともに、手帳サイズの冊子として全従業員に配付し、内容を各自が確認することでコンプライアンス意識の全社的な浸透を図ってきました。2005年8月からはこの行動規範をより今日的な内容にするよう企業倫理委員会で討議を重ね、2006年4月1日に改訂しました。ステークホルダーに「環境」を加えるなど、企業の社会的責任に対するより積極的な取り組みを明文化しているのが主な改訂点です。

なお、「日清オイリオグループ行動規範」全文をホームページにて公開しております。

◎<http://www.nisshin-oillio.com/company>



社会からより一層の期待と信頼を集める誠実な企業を目指し、私たちは新しい取り組みを推進しています。

あらゆるステークホルダーの期待にお応えし、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をご提案・創造すること。それが私たちの願いであり責務です。そのためには、誠実で透明性が高く、かつ有効な企業統治体制が必要になります。私たちは皆様からより一層信頼される企業へとステップアップするために、現在、内部統制構築に向けた取り組みを進めています。

透明性の高い経営を目指した統治体制

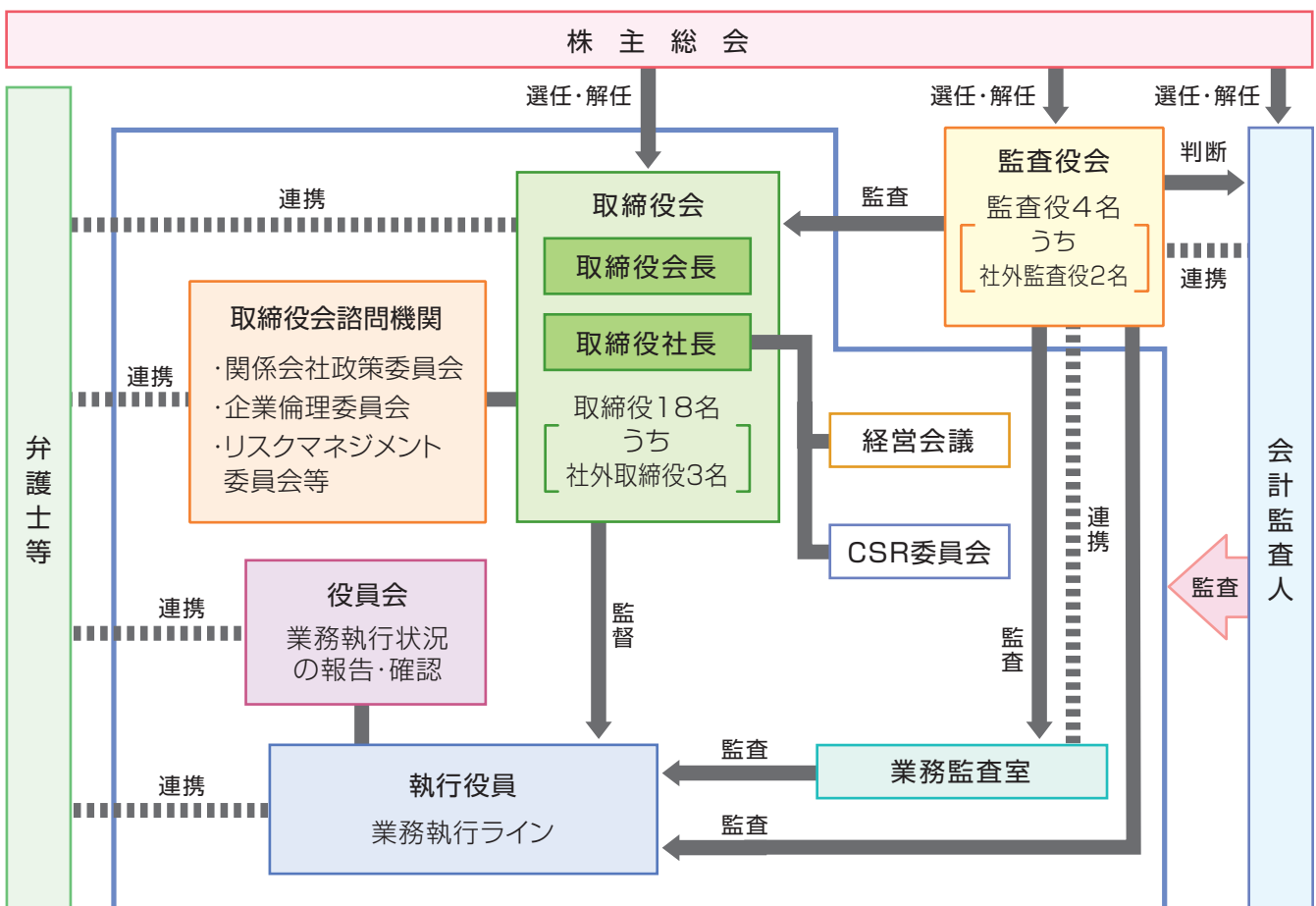
日清オイリオグループは、お客様に健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をご提案・創造する企業にふさわしい、健全で透明性の高い経営を目指し、以下のコーポレートガバナンス体制を整備しています。また、執行役員制度を導入しており、執行役員は取締役会から業務執行権を委譲され、取締役会の方針に則り、担当取締役の了解のもとで業務執行に携わっております。

2005年度の主な取り組み

日清オイリオグループでは、2005年12月から、財務報告の信頼性確保を主眼とする内部統制構築に着手しており、組織、業務、ITの各分野における具体的な作業を推進するためのチームを結成して、活動を展開しています。2005年度は、トライアルフェーズを終了し、今後、各フェーズを経て、2007年4月から本格的な運用を開始する予定です。

■コーポレートガバナンス体制図

日清オイリオグループのコーポレートガバナンスおよび内部統制に関する体制図は、次の通りとなっております。



あらゆるリスクに備える体制の充実。
それは、私たちのCSRにおける最重要側面の一つです。

あらゆるステークホルダーの期待にお応えするためには、私たちの事業を取り巻くさまざまなリスクを特定し、いかなる事態においても事業を中断させない体制と対策を整備しておく必要があります。

私たちは、取締役会に直結する意思決定支援機関であるリスクマネジメント委員会を中軸として、社会的責任を積極的に果たすための万全の体制を整えています。

リスクマネジメントの方針と体制

日清オイリオグループは、経営理念の実現に向けた企業活動におけるさまざまなリスクを把握、管理するために、以下のようにリスクマネジメントの目的と基本方針を定めています。

■ 目的

日清オイリオグループは、リスクマネジメントに対する主体的な取り組みにより、企業として安定した収益を上げるのみならず、顧客、株主、従業員、社会・環境をはじめとするステークホルダーに対する企業としての社会的責任（CSR）を果たすとともに、さらなる企業価値の向上、持続的な発展を目指す。

■ 基本方針

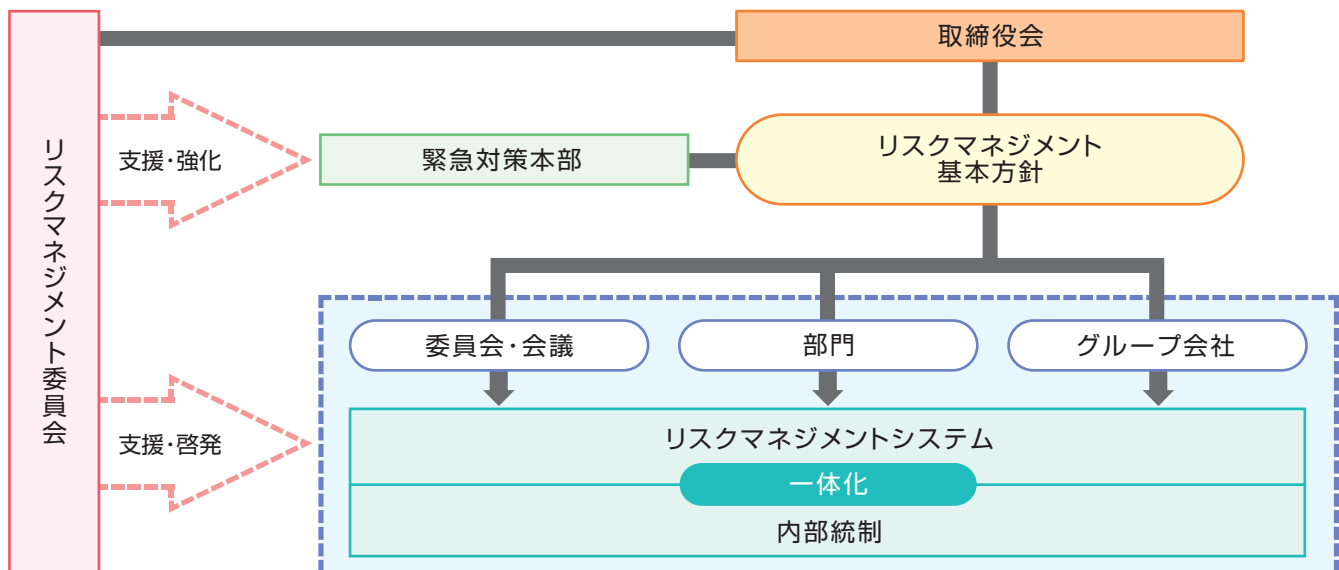
あらゆるリスクに対しての最適な対応策を講ずるとともに、リスク発生時において、被害を最小限に留めるべく、迅速かつ最善の対応を図る。

■ 体制

取締役会の諮問機関として2004年より「リスクマネジメント委員会」を設置、全社的な体制の構築と運用、クライシス対応、教育・啓発に取り組んでいます。また、内部統制構築もリスクマネジメントシステムと一体化させ、両者の機能が最大限発揮できるリスクマネジメント体制の構築を目指しています。

■ リスクマネジメント体制図

日清オイリオグループのリスク管理に関する体制図は、次の通りとなっております。



2005年度の主な取り組み

2005年度におけるリスクマネジメント委員会の主な活動としては、日清オイリオグループ（株）におけるリスクの特定と回避・予防状況を確認することを目的に全部門を対象としたリスク調査（リスクの洗い出し）を実施し、約900のリスクを抽出しました。このリスク調査の結果をもとに、リスク内容から約70区分に分類し、発生頻度・影響度等から総合的に評価・判定、全社リスクマップを作成しました。

さらに、火災・爆発、品質異常、PL責任等の経営における重要なリスクを中心に目標設定、実行、評価・検証、改善のリスクマネジメントシステムの具体的な運用方法を確認しました。また、社内イントラネット上に「リスクマネジメントデータベース」を開設し、リスクマネジメント基本方針はもちろんのこと、各部門におけるリスクとその回避・予防策を一覧化し、再確認できる仕組みにしております。

クライシス対応としては、品質トラブルに対する緊急対策体制を再整備しております。

お客様とともに

品質を向上するための取り組み

お客様の健康に直結する商品を送り出すメーカーだからこそ、揺るぎない品質を確保するための仕組みづくりに注力しています。

食用油のリーディングカンパニーとして、また、お客様の健康に関わる商品を数多く製造している私たちが何より重視しているのは品質です。このため、全事業において早くから品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001認証を取得し、コアプロミス(P.5参照)を品質方針として、原料購買、商品開発から納品まで一貫した体制でマネジメントを行っています。また、常にお客様の視点に立って、お客様の声を品質向上に反映できる体制を整えています。

安全・品質への取り組み

行動規範への明記

日清オイリオグループは「日清オイリオグループ行動規範」において、以下の通り「顧客価値の追求」について明記し、これに基づいて安心できる・安全な商品・サービスの安定的な提供に取り組んでいます。

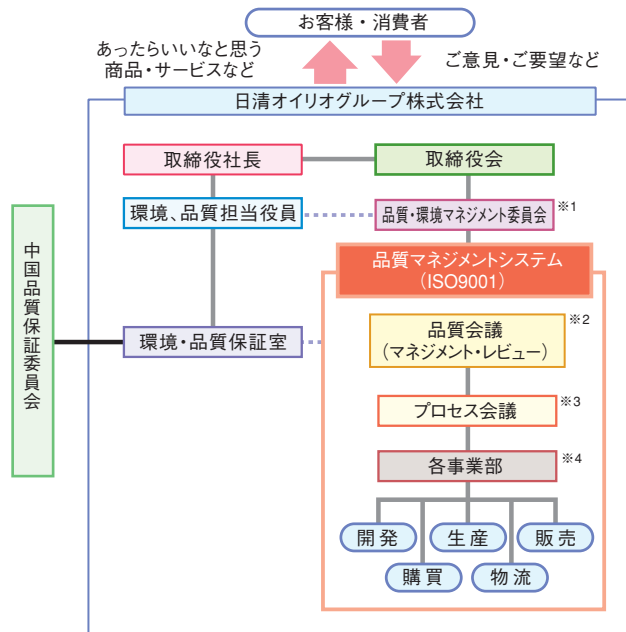
顧客価値の追求

- 1) 最良の質をもって提供するよう、常に商品・サービスの質の維持・向上に努めます。
- 2) 商品・サービスの安全性を最優先とし、そのための供給・管理体制の徹底と更なる改善に努めます。
- 3) 商品・サービスおよびその供給・管理体制について正確で分かりやすい情報を可能な限り公開し、商品情報や活動状況の透明性の維持・向上に努めます。
- 4) 不測の事態が生じた場合は、速やかに人身・設備・環境その他への影響の可能性を整理し、その影響を最小限とするための対策を講じます。同時に、その原因究明と根本的な再発防止対策を行い、これらに関する情報を可能な限り公開するよう努めます。
- 5) 常にコストダウンのためのあらゆる施策を講じ、お客様に満足頂ける価格での商品・サービスの提供ができるように努めます。
- 6) お客様の満足度を基点として、その声に、迅速かつ誠実に対応するとともに、他社に先駆けて、お客様の生活を豊かにする新たな価値を創造・提案し続けることに努めます。

品質保証体制

こうした方針を実現するため、以下のような体制を整えています。品質保証に対しては、取締役会に直結する諮問機関「品質・環境マネジメント委員会」を設置しております。品質保証に関わる経営課題の抽出、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステムの統括を行うこの委員会のもと、システム運用全般に関する情報共有と経営者からの指示事項徹底を担う「品質会議」、運用全般を把握し、部門横断的な課題解決を図る「ISOプロセス会議」を経て、事業部ごとに実行経営者、実行品質管理責任者を置く、きめ細やかな運用が可能な体制になっています。また、確実な運用を実施するために「環境・品質保証室」が運用支援を行っています。

【品質保証体制図】



※1:品質および環境マネジメントに関する統括
※2:品質マネジメントシステムの運用全般に関する情報共有、経営者からの指示事項の徹底
※3:品質マネジメントシステムの運用全般の把握、および部門横断的課題解決
※4:事業部ごとに実行経営者、実行品質管理責任者を置くサブシステムで、きめ細やかな運用をはかっている

ISO9001認証取得状況

日清オイリオグループは、早くから品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。2005年12月には、システムを統合し、原料購買、商品開発、販売、受注、納品までを含めて、品質管理の徹底に努めています。

日清オイリオグループ

	初回認証取得年月	備 考
日清製油(株)	1998年 4月	
リノール油脂(株)	1999年10月	初回認証取はISO9002
ニッコー製油(株)	1999年 9月	初回認証取はISO9002

※2004年7月に上記各社が合併。日清オイリオグループとしてシステムを2005年12月に統合認証

国内グループ企業

	初回認証取得年月	備 考
日清コスモフーズ(株)	2003年 1月	
攝津製油(株)化成品	2000年12月	
攝津製油(株)堺事業所油脂工場	2002年 3月	

海外グループ企業

	初回認証取得年月	備 考
大連日清製油有限公司	2001年12月	※1
張家港統清食品有限公司	2002年12月	
上海日清油脂有限公司	2005年12月	※2

※1 他にISO17025(範囲:品質管理室における油脂・油粕の一般分析)を2003年6月に認証取得
 ※2 他にHACCP(食品の衛生管理システムの国際標準)を2005年12月に認証取得

海外の体制とも連動

「中国品質保証委員会」は、中国を中心とする東アジア地域における日清オイリオグループの海外事業会社の品質保証体制強化を目的に、「日清奥利友(中国)投資有限公司」総経理を委員長、各事業会社の経営者を委員またはオブザーバーとして3ヵ月に1回開催しています。

2005年度からは日本のメンバーも参加して積極的な情報交換を行っています。日清オイリオグループでは、東アジアでの事業展開を円滑に推進する上で、品質保証におけるこうした連携がきわめて重要になると考えています。



中国品質保証委員会

品質監査

ISO9001品質監査は、外部審査と内部監査で実施されています。内部監査は、外部講師による監査員養成セミナーの修了者を有資格者とし、「品質・環境マネジメント委員会」により146名が任命されています。2005年度は、物流関連会社を含む78の部署・プロセスを対象に、品質目標の進捗状況や委託先を含む品質トラブルの予防活動を重点テーマとして、監査を2回行いました。外部審査および内部監査実績としては、改善指摘が20件、改善の機会が165件抽出されました。また、内部監査にあたっては、現場監査、生産拠点間監査、事業部間監査など、異なる視点をもった相互監査を実施し、多様な運用を図っています。ここで指摘・提案された事項については、監査員によるフォローアップ・確認を徹底し、改善活動に役立っています。



ISO9001審査

トレーサビリティ

安心・安全な商品をお届けするためには、商品の履歴を迅速にたどることができる体制の整備が欠かせません。日清オイリオグループでは、ISO9001における手順書、記録(データベース含む)により、原料から、生産、販売までが確認できる仕組みを構築しております。また商品からは、品名、賞味期限等から製造ロットが確認できる仕組みになっています。

原材料情報の管理体制

商品規格および原材料情報を一元管理するシステム「商品情報統合管理システム(I-base)」の導入を進めています。お客様へ提供する情報の精度やスピードが向上し、品質保証の質的なレベルアップを図ることができます。

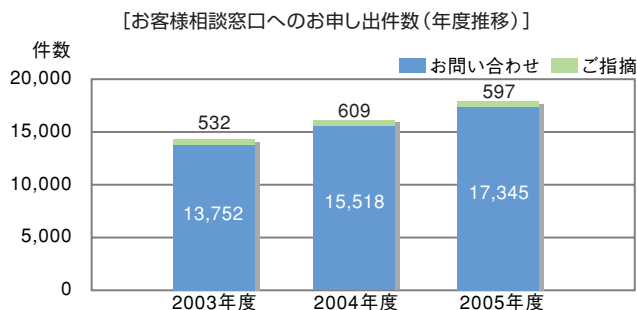
お客様とともに

品質を向上するための取り組み

お客様の声を商品に反映する仕組み

お客様の声を商品に反映していくことは、商品がお客様の健康や生活の質に直結している食品メーカーにとって、最も大切な務めの一つです。日清オイリオグループは、「お客様相談窓口」を設けており、ISO品質マネジメントシステムに基づく教育を受けた要員が窓口業務にあたっています。原則として、お客様からのお問い合わせ等にはその場で答えしておりますが、場合によっては関連の各部門にて分析・検討の上でお答えしています。お客様の声はデータベースに蓄積され、各拠点、部門で共有する仕組みになっており、毎週経営陣に報告されて、原因の究明、改善策の実施についての必要な指示が出されています。

過去3年度分の「お客様相談窓口」へのお申し出件数は以下の通りです。



2005年度のお問い合わせ内容は以下の通りで、商品内容、賞味期限、販売店や入手方法に関するご質問で総数の約82%を占めています。フリーダイヤルのご案内によりお問い合せいただきやすくなったこと、食に関する報道が増加し、食の安全に対する関心が高まっていること等により、お問い合せ総数は前年比約112%と増加しました。

2005年度お問い合わせ内容

お問い合わせ内容	件数	前年比
① 使用方法、商品特長、原材料情報など 「商品の内容に関するご質問」	約6,700件	105%
② 「賞味期限に関するご質問」	約5,300件	113%
③ 「販売店や入手方法に関するご質問」	約2,200件	101%

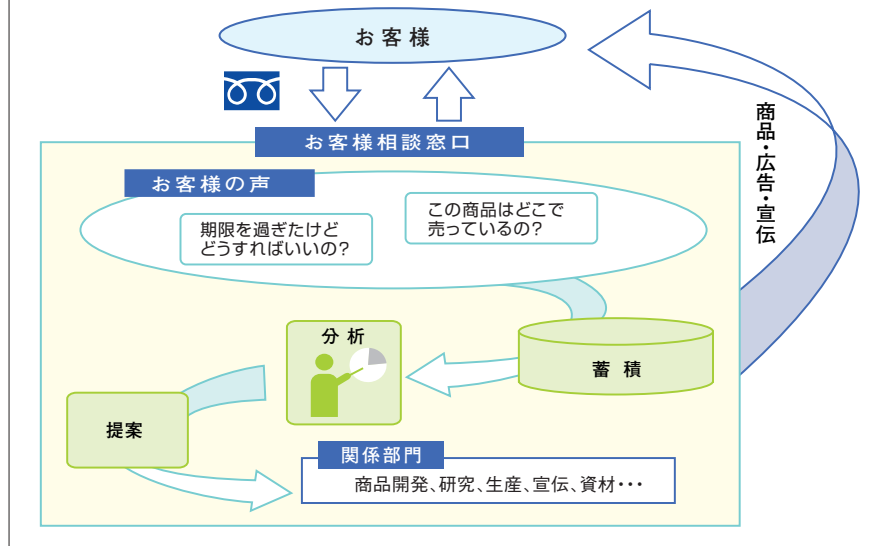
※お問い合わせの詳細

内容	2005年度			2004年度	
	件数	構成比(%)	前年比(%)	件数	構成比(%)
商品知識	6,740	38.9	104.5	6,450	41.6
賞味できますか	5,319	30.7	113.0	4,709	30.3
販売店・扱い	2,178	12.6	101.1	2,155	13.9
品質大丈夫ですか	821	4.7	138.2	594	3.8
提案・要望	384	2.2	123.5	311	2.0
依頼・欲しい	344	2.0	104.9	328	2.1
日付古い	112	0.6	93.3	120	0.8
その他	1,447	8.3	170.0	851	5.5
合計	17,345	100.0	111.8	15,518	100.0



お客様相談窓口

【お客様の声を商品に活かす仕組み】



お客様の声を活かした改善事例

お客様のご要望をもとに商品を改善した例として、「容器開発推進会議」での取り組みをご紹介します。この会議では、資材部門、商品開発部門、生産部門、営業部門、お客様対応部門等を構成メンバーとして、お客様のご要望に基づく容器の改善や新規開発の検討、実施を行っています。

[改善事例]



紙ラベルからPPフィルムへ変更(日清べに花油)

[2004年9月以降の既存容器改善事例]

お客様のご指摘	改善計画	実施内容
紙ラベルははがしにくく、分別に困る。	ラベル材質およびのりのタイプを検討する。	600gPETボトルのラベルを紙からPPフィルムに変更し、「はがし口→」のガイドを明記したデザインに変更した。(写真をご参照ください)
少量注いだ時に液ダレがある。出過ぎる。	少量使用時の液ダレを防止するためキャップ形状の改良を行う。	くちばし状キャップとし、2004年中元期より順次改善した。
キャップシュリンクが切れにくい。素材が硬い。	材質の変更および切り取り線の仕様を変更する。	キャップシュリンクをOPSフィルムに変更し、「あけ口」表示を付けた。ミシン目の仕様を変更した。
リセッタ、コレステを使うとシフォンケーキがうまく膨らまない。	注意書きに「シフォンケーキがうまく膨らまない」旨の記載を設ける。	2005年9月製造以降「本品の特性上、シフォンケーキ等を作る際、うまく膨らまないことがあります」という記載を追加した。
オリーブオイル1ℓPETボトルのキャップが空回りして開かない。	キャップを変更する。	2005年9月製造以降、金属キャップからプラスチックキャップに変更した。

お客様への情報提供の取り組み

日清オイリオグループは、お客様を始めとするあらゆるステークホルダーの皆様にとって有益な情報の提供に努めています。

植物油の美味しいおはなし

油と健康、油の上手な使い方をテーマにした油の便利Book『植物油の美味しいおはなし』を発行しています。「植物油がカラダにいいワケ」「油の上手なとり方」など油の魅力をたっぷり紹介しています。



食と生活情報レポート

食卓に関する調査・研究を継続的に行い、『食と生活情報レポート』を発行しています。2006年4月発行No.7では、1995年から継続してきた食用油に関する総合的な調査をまとめ、この10年間の「キッチンにおける油の存在」の変遷を分析しています。こちらは、ホームページでも公開しています。

◎食と生活情報レポート
<http://www.nisshin-oillio.com>



日清オイリオホームページ

ホームページでは、電話でのお問い合わせ先をテーマごとにご案内している他、よくあるご質問に対応した「油に関するQ&A」や「商品カタログ」、人気の「オリーブオイルレシピ」や「お中元・お歳暮の基本マナー」などの情報を提供しております。また、お気軽に携帯電話からご覧になれるモバイルサイトでは、季節のレシピ、キャンペーンのお知らせなどを配信しております。

- ◎日清オイリオホームページ <http://www.nisshin-oillio.com>
- ◎BOSCOホームページ <http://www.bosco-olive.com>
- ◎オイリオギフト.com <http://www.oillio-gift.com>
- ◎日清オイリオモバイル <http://m.nisshin-oillio.com>



油に関するQ&A

お客様とともに

情報セキュリティの取り組み

情報セキュリティ推進体制

日清オイリオグループは、2001年に「情報セキュリティ規程」を定め、これに基づいて「情報セキュリティ委員会」を設置しています。これは、情報システムに関する事故の防止、および、万一事故が発生した場合の対策を協議する組織として位置づけられています。

現在、内部統制構築に向けた取り組みに伴って（P.19参照）、情報セキュリティのみならず、IT全般統制の観点から諸規程の見直しを進めており、2006年6月にはこれを完了する予定です。

ITインフラの整備を完了

日清オイリオグループは、従来からITインフラの統合・整備を進めてきましたが、2006年3月に、国内すべての事業所のデスクトップパソコン、ノートブックパソコン、ファイルサーバー等の情報インフラを最新のものに刷新いたしました。また、ハードウェア面の更改に伴って暗号化ソフトウェアを全面採用した他、外部媒体への書き出し禁止措置、アクセスログの取得強化など、運用面の安全対策も徹底しています。

今日、ワークスタイルの変化に伴って、従業員がモバイルパソコンを使用して社外で仕事することが多くなりましたが、日清オイリオグループでは「ハードウェアは持ち出しても、データは持ち出さない」という考え方のもと、従業員の情報セキュリティ意識向上に努めるとともに、個人情報を含む機密情報はすべて特定のサーバーにて管理するなど、情報漏洩などのデータ管理事故を未然に防ぐ体制づくりを整えています。

研修等を通じての方針徹底

従業員に対してはイントラネットを通じて情報セキュリティに関する意識調査アンケート等を実施し、知識と日常行動のチェックを行っており、その結果をセキュリティ対策に役立てています。また、新入社員研修はもとより、リーダー職の研修や、各職場・工場の代表者による年数回のミーティングなどを通じて、全社的な情報セキュリティ方針の周知徹底に力を入れています。

個人情報の保護

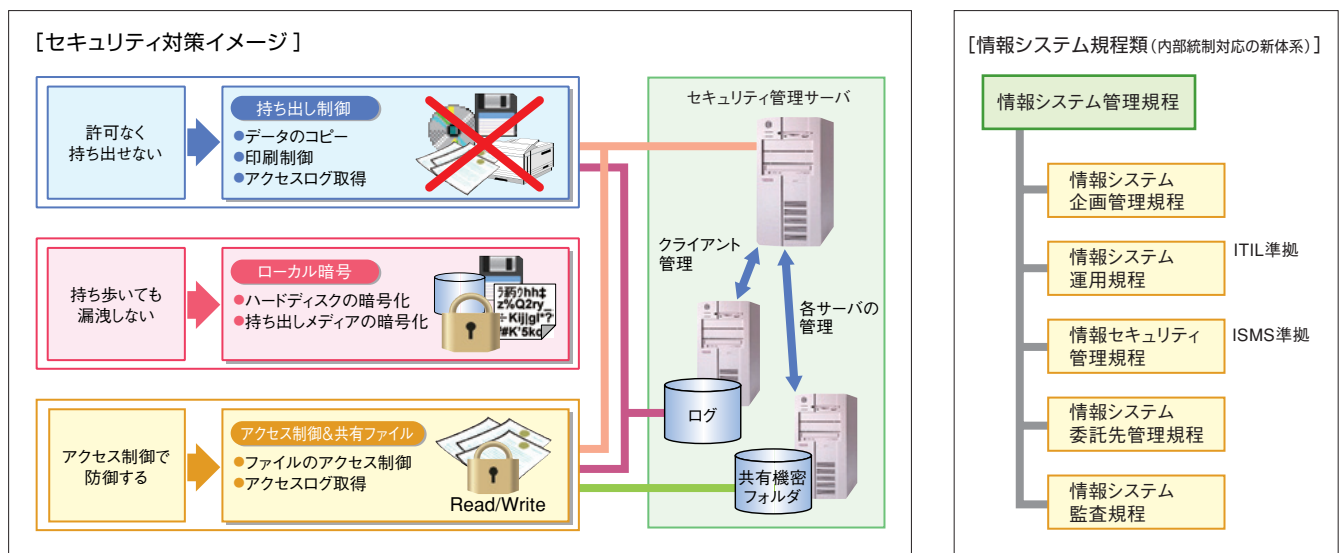
日頃の業務の中でお預かりした個人情報の取り扱いについて、適用される法令その他の規範に従業員一人ひとりが遵守する旨を「日清オイリオグループ行動規範」に明記し、適切に保護・管理することを責務と心得て行動しています。

個人情報保護コンプライアンス方針を「プライバシーポリシー」として定め、全役員・従業員に周知徹底するとともにホームページでも公開しています。

◎プライバシーポリシー <http://www.nisshin-oillio.com>



サーバーラック



取引先様とともに

より良い商品づくりのための取り組み

安心・安全な商品をお届けするため、資材についても品質を重視し、取引先様との緊密な協力体制を敷いています。

容器包装やラベル、梱包材などの品質も、私たちの商品・サービスの重要な構成要素です。私たちは、資材の調達において公正・公平な取引を追求することはもちろん、資材の品質を最も重視し、サプライヤーの皆様との協力体制のもとで、お客様の声や時代の要請にお応えする改善への取り組みを日常的に推進しています。

調達の方針

商品の容器包装、ラベル、段ボールなど、原料以外の資材の調達はロジスティクス部資材グループが行っています。調達などに関する基本方針は、「日清オイリオグループ行動規範」に以下の通り明記しており、資材グループはこの方針をふまえて資材調達先を選定し、資材の価格や規格、設計・開発に関して取引先様と緊密な関係を保っています。

ビジネス社会の法令および倫理の遵守

- 1) 原料・資材等の購入先などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、優越的地位を利用して不当に不利益をおよぼしません。また、個人的な利益や便宜の供与を要求しません。
- 2) 販売店などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、排除行為・不当に差別的な取扱い・事業活動の妨害などの不正行為を行いません。
- 3) 取引先などとの接待や贈答品の授受は、健全な商慣習や社会的常識の範疇を逸脱しません。

取引先様との連携による品質改善

日清オイリオグループが資材調達において最も重視しているのは品質で、各種法令に定められた事項を遵守することを大前提にして、ISO9001に基づく品質管理を行っています。取引先様とは、日清オイリオグループの「品質方針」をお伝えした上で、品質の維持・改善のために日常的に緊密なコミュニケーションをとるとともに、定期的に合同会議や生産工程の監査（2005年度実績31件）を実施するなど、品質向上のための情報交換を行っています。万が一品質に問題があった場合は、そのつど特別な監査を実施し、日清オイリオグループの要望をお伝えしています。

ユニバーサルデザインの追求

日清オイリオグループは、取引先様とのこうした連携に基づき、お客様の声や世の中の動向、最新の研究成果を反映した容器の開発や改善などを推進しております。最近は特に、減量化、環境にやさしい新素材の追求、ユニバーサルデザインを考慮した設計に力を入れています。開発の成果は「食品開発センター」での評価を経て商品化しており、評価基準も随時見直されています。

ユニバーサルデザインの評価基準としては、持ちやすさ、注ぎやすさ、ラベルの見やすさ、廃棄の容易さなどさまざまな項目を検討しております。ライフスタイルや食生活の変化も見据えて、今後とも継続して検討していきます。

お客様の声を反映した容器の改善例につきましてはP.24をご参照ください。



日清炒め油200gPETボトル

日清炒め油は、(財)すこやか食生活協会*1の「かしこく選ぶ食生活グッズ～高齢者・障害者のためのガイドランス～」の中で、「しっかり握れる」「ひと押しで、手軽に1回分が出せる」などが評価され、「ユニバーサルデザインの食品の容器包装」として取り上げられました。 *1お問合せ先 tel:03-3583-9395



日清キャノーラ油400gPETボトル

日清キャノーラ油400gPETは、手にフィットして持ちやすく、収納しやすいスリムな形状の容器を使用しています。

株主・投資家様とともに

適切な情報開示の取り組み

株主・投資家の皆様のご期待にお応えするための
適時・適切な情報開示に努めています。

株主・投資家様から信頼していただける企業になるための指針として、
私たちは「日清オイリオグループ行動規範」に「株主価値の追求」を明記しています。
これをふまえ、私たちの事業計画や財務内容について知っていただくための活動を展開し、
信頼性の高い情報開示が行える仕組みを整備しています。

株主価値の追求は行動規範の一つ

透明性の高い企業経営によって利潤を追求し、企業価値を向上して持続的な発展を実現することが、株主・投資家の皆様に対する日清オイリオグループの責務です。その遂行のための考え方は、下記の通り「日清オイリオグループ行動規範」にも明記しています。

株主価値の追求

- 1) 誠実な事業活動、経営資源の効率的な活用、適切なリスク管理を通じて企業の利潤を追求し、株主の期待に応えます。
- 2) 株主・投資家の適切な判断に資するよう、当社グループの活動・組織・財務状況・業績などの開示のみならず、将来の成長戦略や企業の社会的責任（CSR）に対する取り組み等の経営情報を常にタイムリーに開示するよう努めます。

コミュニケーションの取り組み

日清オイリオグループは、商法の定めや東京証券取引所の推奨に従って、適時・適切な情報開示を行っているだけでなく、株主・投資家の皆様との関係（IR）を密にするためのさまざまな取り組みを通じて、その声を経営に反映できるよう努めております。

2005年度は個人投資家向けの合同IRフェアに2回参加、証券会社主催のIRセミナーを7回、投資クラブ向けのセミナーを1回開催、日清オイリオグループの経営理念や経営計画についてご説明しました。

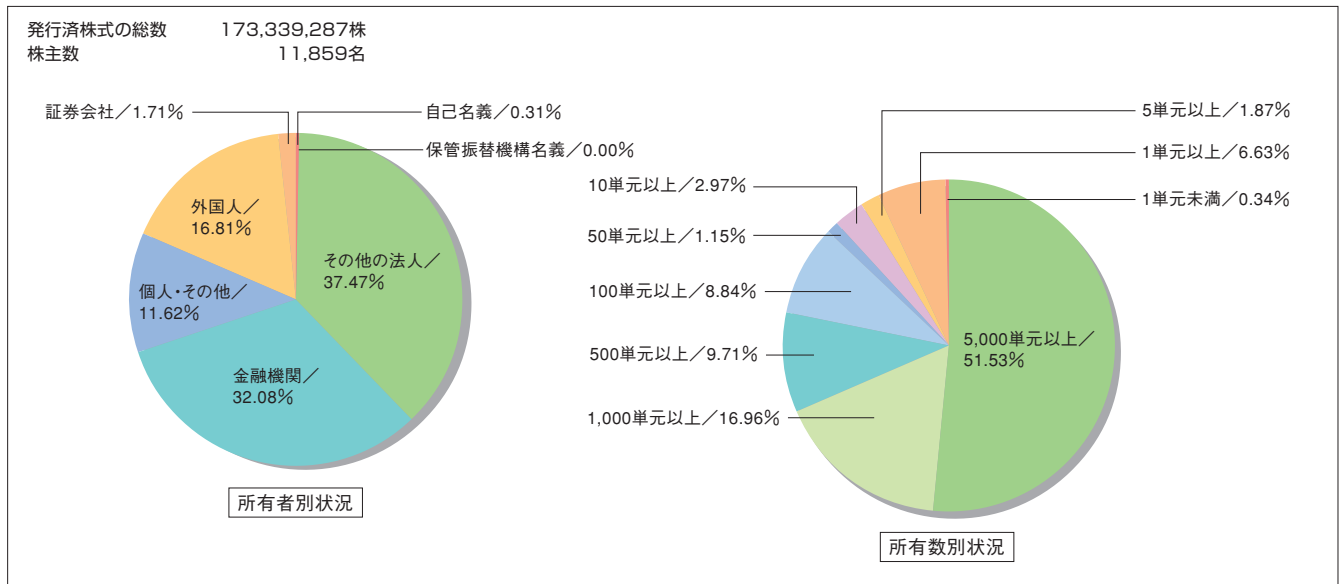


IRフェア



投資クラブ向けセミナー

[株式分布状況(2006年3月31日現在)]



株主総会の開催

より多くの株主様に株主総会にご参加していただけるよう、他社の株主総会が集中する期日を避けて株主総会の開催日を設定しております。



株主優待制度

毎年3月31日現在の株主名簿に記載され、1,000株以上を所有される株主様に、3,000円相当の日清オイリオグループ製品をお贈りしております。

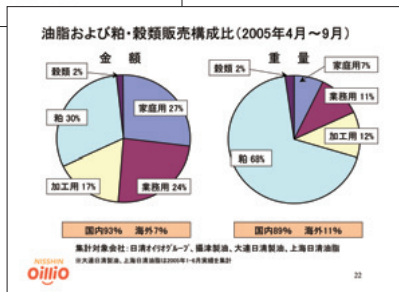


決算説明会

アナリストやマスコミの方々を対象に年2回、決算説明会を開催しております。経営トップから決算状況や中期経営計画「AHEAD」の進捗状況などを説明し、タイムリーな情報をご提供するよう努めております。また、決算説明会で使用しました補足資料をホームページで開示しております。



決算説明会資料



IRツール

正確で信頼性の高い情報をタイムリーに提供するため、ホームページで随時IR情報を更新している他、アニュアルレポート、事業報告書等を通じて、わかりやすい情報開示に努めております。

◎IR情報 <http://www.nissin-oillio.com/inv/>



アニュアルレポート



事業報告書

携帯電話でのIR情報配信

2005年12月1日から、携帯電話でのIR情報配信を開始しました。iモード、J-SKY、EZwebで閲覧でき、当社の企業理念や財務データ、日々の株価の動きなどをお気軽にご覧いただけます。

◎携帯電話でのIRサイト
<http://m-ir.jp/c/2602>



従業員とともに

人のチカラを引き出すための取り組み

一人ひとりが真のプロフェッショナルであってほしい。
その願いから、社員の成長を支援する制度づくりを進めています。

私たちは「日清オイリオグループ行動規範」で規定している通り、従業員が安心できる・安全な商品・サービスを安定的に供給する使命に誇りを持って取り組めるよう、さまざまな制度を整備しています。創造性と専門性、行動力と課題解決力をそなえた人材は私たちの財産です。だからこそ、一人ひとりのチカラを引き出し、育てていく仕組みづくりに力を注いでいます。

従業員価値の追求

- 1) 常に安心できる安全・高品質な商品、サービスをお客様に安定的に供給する使命に誇りを持ち、常にチャレンジ精神を持って、業務に関する能力の向上、積極的な業務改善・効率化に努めます。
- 2) 従業員一人ひとりの基本的人権を尊重し、職場における不当な扱いや差別を排除します。また、自己実現と業績向上を基本とした公正な評価・処遇をすることに努めます。
- 3) 従業員一人ひとりの個性・適性を尊重し、それぞれのキャリア形成や能力開発を積極的に支援します。また、次代の中核となる「豊かな創造性、高度な専門性、強い行動力と課題解決力」をもつ人材の育成に努めます。
- 4) 相互の報告・連絡・相談を円滑かつ正確に行い、お互いが信頼し協力しあえる風土作りに努めます。また、常に職場環境の安全衛生の維持・向上に努めるとともに、従業員と家族の安心をつくりだすことに努めます。

一人ひとりのチカラを引き出すための取り組み

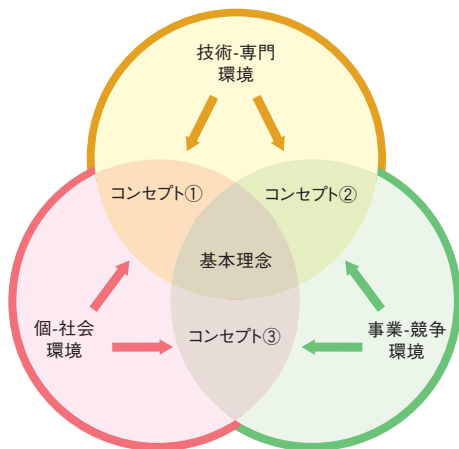
「能力開発・成果主義」を基本理念とした新プロフェッショナル人事制度

社員一人ひとりが、高度な専門性に裏付けられた行動力をもって成果を出すプロフェッショナルであってほしいと考えています。2000年に「能力開発・成果主義」を基本理念とする人事制度を導入したのはこの考え方に立ってのことですが、この制度の特長は、単なる成果主義ではなく、社員個々の能力向上開発を会社が支援することを前提としている点にあります。

導入にあたっては、労働組合とともに発足させた「労使検討委員会」での議論を経て年功型から脱皮する考え方として合意形成を行いました。本制度は「目標実現制度」と「キャリア・デザイン制度」を両輪として成り立っており、今後の制度運用の中で課題が出てきた場合には、そのつど柔軟に見直し、改善していくこととしています。

[新プロフェッショナル人事制度]

〈コンセプト〉Be Professional



〈基本理念〉

能力開発・成果主義 ~自己実現(個人の成長)と業績向上(会社の発展)

社員一人ひとりが高度の専門性に裏付けられた強力な行動力を発揮し、成果につなげていくプロフェッショナルとなることを求める

① Up your professionalism through your specialities.

社員は職業人として自分自身の人生をしっかりと築いてほしい。自分の専門能力を高め、プロフェッショナルとして自分を確立してほしい。日清オイリオグループはそれをサポートする。

② Up your company through your professionalism.

社員は日清オイリオグループの事業・業務を通じて自分の専門性を高め、プロフェッショナルとして力を発揮し、すばらしい業績をあげ、社の発展に貢献してほしい。日清オイリオグループはそれをリードする。

③ Up your life through your professionalism.

社員は個人としての価値観を確立してほしい。そして、日清オイリオグループで働くということと充実した人生の実現ということがイコールになるように努力してほしい。日清オイリオグループはそれをサポートする。

注1. upはraiseの意。 注2. professionalismは造語。

目標実現制度

人事制度の中核となるシステムの一つに、社員一人ひとりが「業績達成目標」と「専門能力開発目標」を掲げ、この達成状況を定期的に評価し更なるステップアップに繋げていく「目標実現制度」があります。

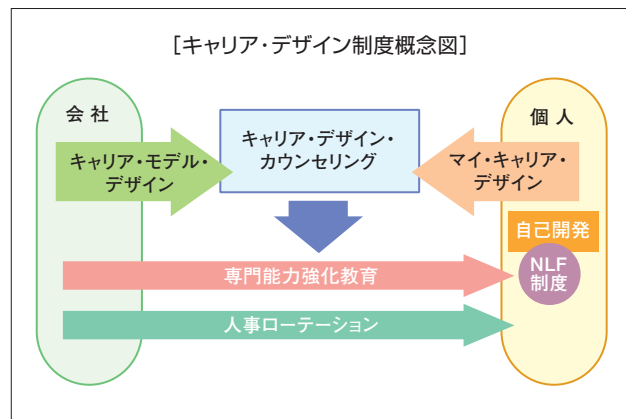
この制度は、

- (1) 社員一人ひとりの目標と達成度を明らかにすること
- (2) 改革や創造への動機づけを行うこと
- (3) 社員一人ひとりの能力開発のニーズを把握すること
- (4) 挑戦的、競争的風土を醸成すること

を目的としており、自己実現（個人の成長）と業績向上（会社の発展）の両面を達成させる仕組みとして運用しています。

キャリア・デザイン制度

人事制度の中核となるシステムの一つで、社員一人ひとりが主体的かつ自立的にキャリアを描き、描いたキャリアを形成していく姿勢を、会社が積極的に支援していく制度です。この制度を通じて、社員はよりプロフェッショナルなキャリア人材となり、より高い目標に向かって事業・戦略を推進していきます。



充実した教育研修制度

長年にわたって「教育はすべての業務に優先する」という考えのもと、社員教育の充実に力を入れており、階層別教育、部門別教育、自己開発教育など体系的な教育研修制度を整えています。特に、安心できる・安全な商品をお届けする食品メーカーに不可欠な教育として、品質管理面でのISO教育や、「惣菜管理士」などの資格取得のための教育にも力を入れています。

また、労使にて定めているNLF（日清ライフファンド）制度により、語学スクーリングやTOEIC受験、通信教育受講など自己開発教育への補助も行っています。

[教育・研修体系]

	階層別教育 (基本教育)	階層別教育 (選抜教育)	部門別教育	新領域教育	自己開発教育	その他
業績職	評価者教育	事業経営力強化教育				
準業績職・上級職	準業績職・上級職教育	経営アカデミー	部門別専門能力強化教育	新領域専門能力開発教育	NLF制度	海外研修 留学
基幹職	ビジネス行動力育成教育(上級)					
準基幹職	ビジネス行動力育成教育(初級)					
新入社員	新入社員教育					

海外語学研修制度

海外へ派遣する語学研修制度を1997年から継続的に実施しています。なかでも重点的に事業展開している中国への語学研修に力を入れています。2005年には、意欲ある人材を登用するため、語学研修生を公募にて決定しました。

定年退職者再雇用制度

少子高齢化、人口減の時代、若く優秀な人材確保が難しくなる一方、ベテラン社員の定年退職によって蓄積された知識や技術、ノウハウ、経験が継承されずに失われてしまうことを懸念しています。日清オイリオグループは、豊かな知識と経験を持ったベテラン社員にもっと力を発揮していただきたいという思いから、高齢者雇用制度の再構築に取り組み、「定年退職者再雇用制度」を導入しました。これにより、さらに活力ある組織づくりを推進できるものと考えています。

定年退職者再雇用制度の概要

- ① 2006年4月1日以降、定年退職を迎える当社従業員で、継続雇用を希望する者のうち、別に定める審査基準を満たす者を契約社員として再雇用する。
- ② 業務内容は、業務の過不足、本人の経験・技能および本人の希望等を勘案して、会社が決定する。

障がいのある方の雇用のための子会社設立

障がいのある方の積極的な雇用を推進しています。2004年4月には、障がいのある方の安定雇用によって社会的責任を果たすことを目的とする特例子会社「日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社」を設立しました。横浜磯子事業場内に事務所を設置し、事業場内の清掃業務を中心に能力開発を支援しています。

従業員とともに

安全で働きやすい職場づくりの取り組み

安全で働きやすい職場づくりの取り組み

防災基本規程

日清オイリオグループは、2004年7月、合併後の日清オイリオグループ(株)の生産・研究開発部門に共通する防災管理の基本的枠組として「防災基本規程」を策定しました。現在、各事業所はこれに則りつつ、地域特性や条例等を反映した独自の防災管理を実施しています。

防災管理の基本的枠組み

1. 基本理念

- 「発生させない! 拡大させない! 早期復旧する!」
- 構内従事者・外来者の安全確保と安心して働ける職場づくり
- 安定操業・出荷体制の堅持によるメーカーとしての企業基盤の確保
- 取引先の操業確保・地域社会からの安心感維持等による社会的信用の維持・向上

2. 防災管理における3つの柱

- ① 予防管理: リスクマネジメント・ISO的視点にたった危険予知と危険因子の撲滅
- ② 発災時管理 (被害拡大防止・早期復旧管理): 発災直後の迅速な初動活動の確保
- ③ 意識・行動管理: 防災訓練・教育の強化等を通じた徹底的な防災意識の高揚と体質強化

3. 管理体制

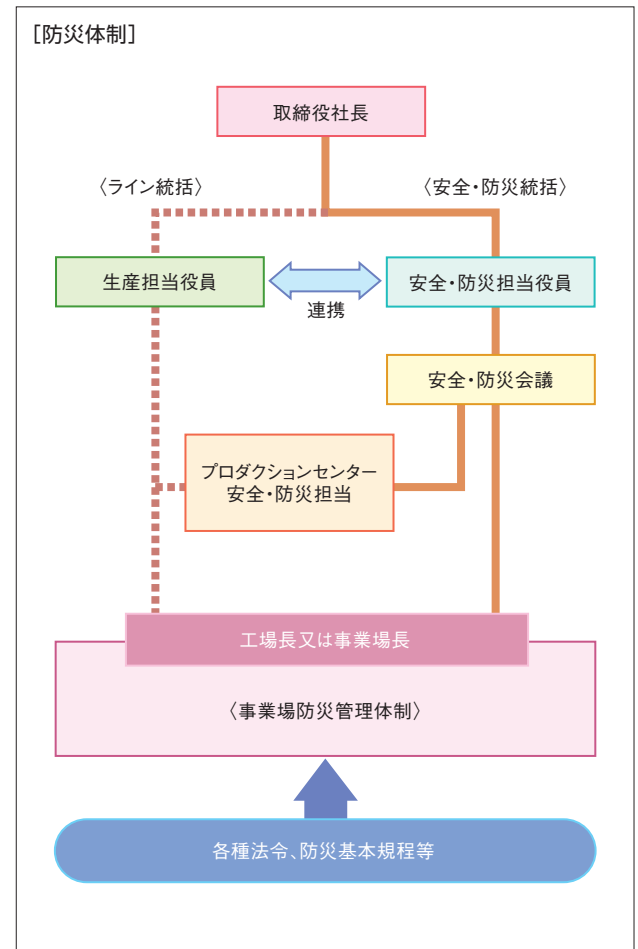
	平常時体制	緊急時体制
全体防災管理	<ul style="list-style-type: none"> ○安全・防災担当役員を長とする全社的な防災管理体制 ○全社的な防災問題の解決と防災水準の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○社長を本部長、安全・防災担当役員を副本部長とする緊急時対策本部を中心とする体制 ○迅速かつ明確な指示命令、情報伝達系統の形成
事業場防災管理	<ul style="list-style-type: none"> ○工場長/事業場長を防災管理責任者とする日常防災管理 ○予防管理の徹底と緊急時対応への訓練強化 ○防災訓練・教育等を通じた事業場内の防災意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ○工場長/事業場長を現場対策本部長とする体制 ○被害の拡大防止と早期復旧

全社的な防災体制

日清オイリオグループでは、「安全・防災担当役員」が、全社的な安全・防災管理を統括しています。緊急事態には、緊急対策本部長(取締役社長)が副本部長である「安全・防災担当役員」の補佐を受け、被害拡大防止や早期復旧のための指揮命令を発動します。

一方、生産部門のライン統括を行う「生産担当役員」は、「安全・防災担当役員」との連携のもと、生産部門の安全・防災体制の維持・強化を図ります。「プロダクションセンター安全・防災担当」は、各事業所と連絡を取りながら連携体制の維持・強化を行います。

また、「安全・防災担当役員」を座長とする「安全・防災会議」は、原則として年2回開催され、全社的な安全・防災管理の維持・強化のための指針や施策の諮問などを行っています。



各事業所の防災活動

各事業所では、「安全・防災会議」での検討事項をふまえて、工場長／事業場長を委員長とする「安全衛生防災委員会」を月1回開催し、安全で働きやすい職場づくりのための取り組みを進めています。社外の組織体としては、事業所周围の企業から構成される「労務安全衛生協会」があり、各企業共通のテーマを設定して講演会などの啓発活動を展開しています。各事業所では年度ごとに方針、目標を見直してスローガンを策定、重点活動項目を設定して活動方針や活動計画にまとめ、これに基づいて活動しています。横浜磯子事業場を例にとると、2005年度は「安全衛生防災活動方針」において、以下のような目標と、目標達成のための重点活動項目、スローガンを設定しました。

目標

- ① 労働災害の撲滅及び事故（流出、火災）ゼロ
 - <重点活動項目>
 - 各部署でのリスクアセスメントに基づく危険予知・予測活動の展開
 - 教育・訓練の充実
 - 外部コンサルタントによる事業場の安全衛生防災診断
- ② 製品の品質・安全を確保するために必要な衛生環境の維持・改善
 - <重点活動項目>
 - 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動の推進
（「食品工場にふさわしい身だしなみと明るく元気な挨拶の励行」「身の回りと職場内の整理整頓清掃及び不要物の一斉撤去」「一斉清掃と一斉除草」）
- ③ 自然災害（地震、台風等）
 - <重点活動項目>
 - 総合防災訓練、設備定期点検等の定常活動の充実

スローガン

**「元気なあいさつで明るい職場、
無事故・無災害を実現しよう!!」**

労働安全マネジメントシステムとしては、名古屋工場では2003年からOSHMS*に準じた独自のシステムを導入、運用しております。各事業所において2005年度からリスクアセスメントシステムの導入を開始しました。

※OSHMS:厚生労働省指針（平成11年労働省告示第53号）に基づいた労働安全衛生マネジメントシステム。

防災訓練

万が一災害が発生した場合、初期活動により災害を最小限に抑えるためそれぞれの事業所において、年2回「総合防災訓練」を実施しています。これは実際に消防車から放水を行うなど、本格的な訓練となっています。横浜磯子事業場では、「自衛消防隊」による訓練も随時行っている他、各職場からメンバーを選出して消火技術を競う形式の「消火競技会」を訓練の一環として定例行事にしています。



総合防災訓練

また、各生産事業所では周辺の企業と連携し、防災訓練を実施するなど地域防災に努めています。

心身の健康づくりのために

健康診断を全社的に年2回実施しています。また、各事業所に健康相談の場を設けて、従業員が健康に働けるよう留意しています。メンタルヘルスに関しては、全社的な心の健康管理に向けて取り組みを始めています。横浜磯子事業場では、2005年10月に「うつ」をテーマとした精神科医の講演会を開催しました。堺事業場では、7月に管理職を対象とした講演会を、名古屋工場では10月にメンタルヘルスに関する研修会を開催しました。



メンタルヘルス研修会
（名古屋）

〔健康相談実施状況〕

本 社	毎週水曜日	看護師による健康相談室を開設
横浜磯子事業場	看護師が常駐	
横須賀事業場	月1回	看護師による健康相談室を開設
名古屋工場	週3日	看護師による健康相談室を開設
大阪事業場	毎週木曜日	看護師による健康相談室を開設
堺事業場	週3日	看護師による健康相談室を開設
水島工場	月1回	産業医による健康相談室を開設

社会のために

社会とのコミュニケーション

社会との、楽しく実り豊かなコミュニケーション。
それは一企業市民としての私たちが果たすべき責務です。

私たちの事業は、社会の皆様からのご理解、ご協力の上に成り立っています。社会・経済の発展と環境保護を目指し、寄付活動や教育・スポーツ分野での支援を通じ、グループをあげて社会貢献に取り組んでいます。また、各生産拠点では、日頃からお世話になっている地域の皆様への感謝の気持ちを込めて、また、私たちの事業への理解を一層深めていただくために、さまざまなコミュニケーションに力を注ぎ、地域の一員としての社会的責任を果たしています。

「日清オイリオグループ行動規範」において社会・環境への取り組みを以下の通りに明記し、これに基づいて社会・経済の発展と環境保持が両立した社会の実現に向けて取り組んでいます。

- 1) 地域社会の活動、災害時の救援・協力活動への参加など、良き企業市民として果たすべき責任と役割を自覚し、広く社会に資する活動に努めます。また、一人ひとりの自主的な社会貢献活動を尊重するとともに、そのための環境整備に取り組めます。
- 2) 国際社会の一員として、関係国の法令・国際協定・自由貿易の原則を遵守し、良好な企業活動や地域社会への積極的なコミュニケーションを通じて、関係国・地域と企業が共に発展していくよう努めます。
- 3) 資源循環型社会の構築を目指して、「3R活動 (Reduce・Reuse・Recycle)」を実践するとともに、資源・エネルギーの利用の効率化による地球温暖化対策に主体的に取り組めます。また、当社グループの環境への取り組みや考え方をあらゆるステークホルダーに幅広く理解していただくことを目的に、環境に関する自社活動情報の積極的な公開に努めます。
- 4) 安全・高品質であると同時に、省資源、省エネルギー、リサイクル、環境への影響などに着目した「自然と環境にやさしい」商品・サービスの開発・提供に努めます。

社会貢献活動

●災害支援・寄付活動

国連WFP協会や国際食糧農業機関 (FAO)、日本経団連自然保護基金などの公益団体への寄付や被災地への援助を行っています。2005年度は、世界各地で大きな災害が発生しました。被災地へ関連団体を通じて、被害義援金を寄付いたしました。

[被災地への援助]

2005年3月	福岡県西方沖地震
9月	米国で発生したハリケーン「カトリーナ」
10月	パキスタン北部地震

●ベルマーク運動への参画

ベルマーク教育助成財団創設当初から40年以上にわたり、教育振興のベルマーク活動の趣旨に賛同し、同運動へ参画しています。現在、5つの商品を対象として、全国の学校施設の充実に貢献しています。



●地域での清掃活動

各地の事業所周辺で、従業員による清掃活動を定期的に行っています。環境美化のために今後も継続して取り組んでまいります。



水島工場周辺での清掃活動

お客様、地域社会との交流

●料理教室

おいしい食卓を通じて幸福な生活をお過ごしいただけるように、各地で料理教室を開催しております。日清オイリオグループ単独、あるいは他企業との共同で、お客様へ食用油のおいしさや料理の楽しさを提案しております。また、オリーブオイルのすばらしさ、食卓を豊かに彩る料理へのひろがりをご理解いただくために、オリーブオイルのセミナーを開催しております。



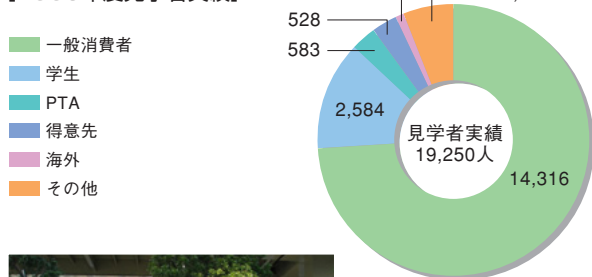
料理教室

●工場見学

食用油の生産現場を知っていただくため、横浜磯子事業場の工場見学を予約制にて承っており、消費者の皆様、全国の小中学生などを中心にご利用いただいております。2005年度からは環境にやさしいCNG（圧縮天然ガス）を燃料とした見学用バスを導入し、広大な工場敷地内の見学がより容易になりました。また、事業場内のPR施設「ウェルネスギャラリー」では食用油の歴史・原料や生産工程をわかりやすくご紹介しております。なお、その他の事業場、研究所においては取引先様を中心とする見学を承っております。

◎横浜磯子事業場 工場見学のお申し込み・お問い合わせは
日清オイリオ ウェルネスギャラリー
TEL 045-757-5038 / 045-757-5030

[2005年度見学者実績]



見学者用バス



ウェルネスギャラリー（横浜磯子事業場）

●横浜磯子春まつりの開催

横浜磯子事業場の敷地を地域の皆様に開放して行われるイベントです。近隣住民の皆様と良好なコミュニケーションを図ることを目的として始まり、2005年は24回目の開催となり、16,500人ものお客様にご来場いただきました。



横浜磯子春まつり

人々の健康な暮らしを支援する取り組み

日清オイリオグループは、25年以上開催されている「神奈川マラソン」を後援し、この大会のスタート地点、ゴール地点として横浜磯子事業場をご利用いただいております。また、スイミングアドバイザー木原光知子さんによる「ヘルシーアップスイミング」スクールを毎年、開催しております。なお、日清オイリオグループのホームページでは「木原光知子のヘルシー&ビューティー講座」を開設しており、水泳やエクササイズなどについての役立つ情報を発信しております。

◎<http://www.nisshin-oillio.com/kihara/>



神奈川マラソン



スイミングスクール

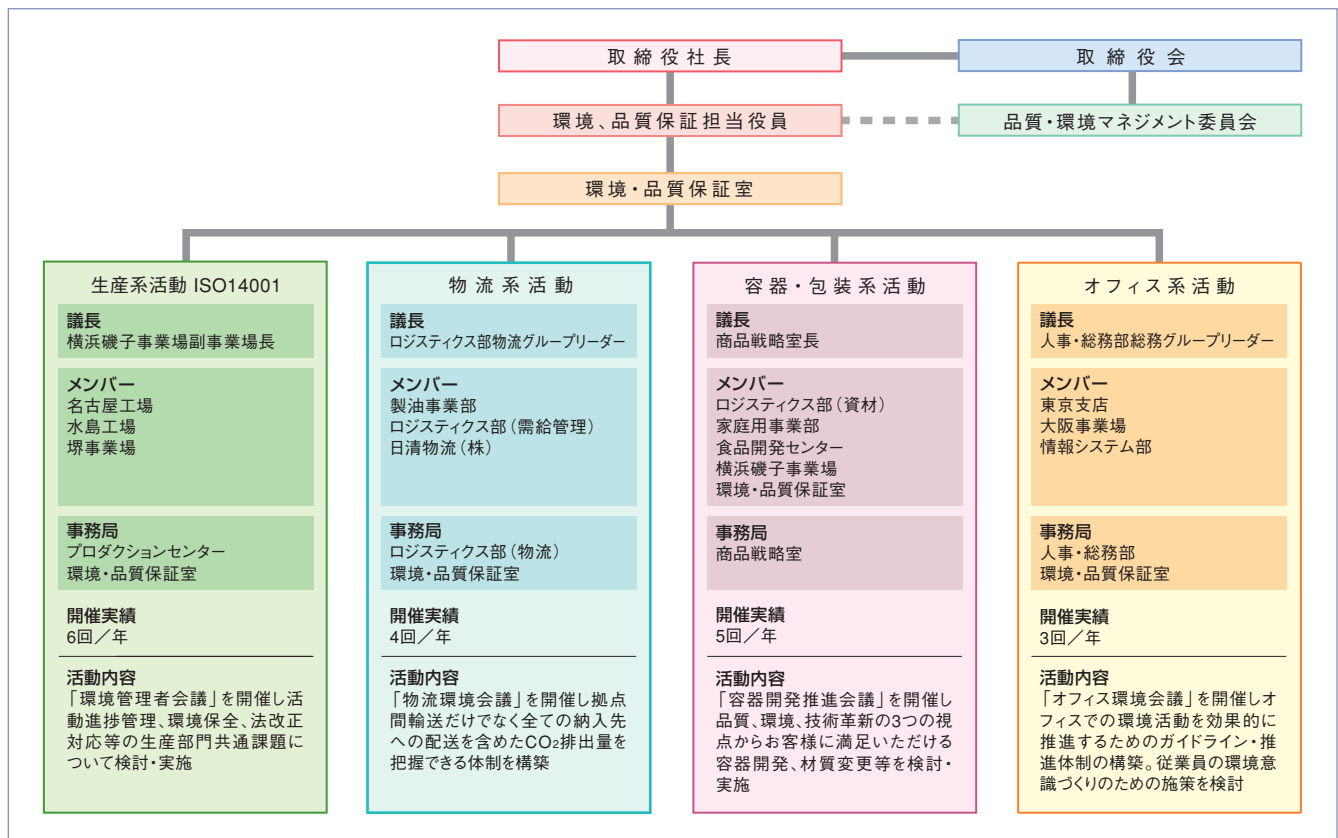
環境のために

環境マネジメント推進体制

組織を横断する4つの活動体の自主的な取り組みにより、
 全員参加型の環境活動を推進しています。

日清オイリオグループは、2005年2月から、組織の枠組みを超えた4つの活動体（生産系活動、物流系活動、容器・包装系活動、オフィス系活動）を設け、それぞれに環境目標の策定、重点活動項目の決定、進捗管理、課題の抽出などを行っています。全社をあげて環境保全についての意識を高め、持続的な環境活動を推進できる体制づくり、それが日清オイリオグループにおける環境マネジメントの大きな特長です。

環境マネジメント体制



環境目標と実績

〔環境目標および評価・環境保全活動〕

環境負荷低減に向けた活動を全社的なものとするために、環境目標を部門別に設定し環境活動の推進に取り組んでいます。

部門	テーマ	中長期環境目標・活動内容	自己評価	参照
開発	環境関連製品・事業開発	廃食用油削減、副産物の有効利用、石油代替製品の開発等	○	P.39-40
資材	容器包装の削減	家庭用・業務用容器包装の減量化、減容化	○	P.44
生産	二酸化炭素の削減	生産工程の使用エネルギーについて、「CO ₂ 排出量原単位」として、2010年までに88%に改善（1990年対比）	△	P.41
	廃棄物の削減	2010年までに、生産工程でのゼロエミッションを達成	○	P.43
物流	二酸化炭素の削減	拠点間輸送におけるCO ₂ 排出量を2007年度までに3%削減（2004年度対比）	△	P.42
	配送の効率化	共同配送、配送効率化、モーダルシフトの推進	○	P.42
	省資源	バルク配送による脱容器化、運搬容器の再利用	○	P.44
管理	電気使用量の削減	オフィスでの電気使用量を、2006年度までに10%削減（2003年度対比）	△	P.45
	省資源	コピー用紙の使用量削減（ペーパーレス化、裏紙使用等）	○	P.45

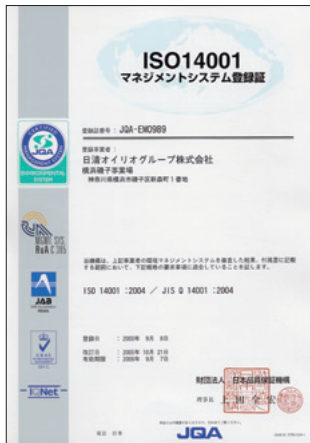
評価：○順調に進捗、△改善が必要

ISO14001 認証取得状況

日清オイリオグループの各生産拠点では、早くから環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得し、環境マネジメントプログラムに基づく活動を行っています。

[ISO14001 認証取得状況]

生産拠点	初回認証取得年月
横浜磯子事業場	2000年 9月
名古屋工場	2003年12月
堺事業場	2003年 4月
水島工場	2004年 4月



ISO14001登録証(磯子)

環境監査状況

各生産拠点では、ISO14001に基づき、外部認証機関による「外部審査」の他、内部監査員による年2回の内部監査を実施しています。2005年度は内部監査において、全体で改善指摘が64件、改善の機会が57件抽出され、改善に向けた取り組みを実施しています。また、廃棄物処理施設については、これまでは拠点ごとに点検を実施していましたが、現在は合同で行い、複数の視点から点検する体制を整えています。



ISO14001 内部監査

環境法規制の遵守

各生産拠点では、大気・水質汚染対策として法規制値より厳しい管理基準値を設け、大気・水質汚染物質の常時監視、土壌サンプル採取による土壌汚染監視などを実施しています。2005年度は、これらに関する法規制の違反はありませんでした。

環境教育の実施状況

日清オイリオグループでは、本社、生産拠点にてさまざまな環境関連の教育、ならびに資格取得のための教育・支援を行っています。

[2005年度に実施した主な環境教育]

分類	実施内容
一般教育	新入社員教育 部門別教育
ISO教育	環境マネジメントシステム教育 内部監査員養成セミナー 内部監査員講習 2004年版規格説明会
専門技能者教育	粉塵爆発講習 有機溶剤爆発講習 廃棄物処理関連講習



粉塵爆発講習

[各拠点における資格保有者数(2006年3月31日現在)]

名称	磯子	名古屋	堺	水島	合計
ボイラー技士	65	31	24	41	161
ボイラー整備士	5	1	7	13	26
ボイラー・タービン主任技術者	1	5	0	1	7
危険物取扱者	180	81	50	60	371
公害防止管理者(水質)	6	4	3	20	33
公害防止管理者(大気)	5	5	3	4	17
エネルギー管理士(熱)	3	3	3	2	11
エネルギー管理士(電気)	1	2	1	2	6
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	4	0	0	1	5
ISO14001内部監査員	79	29	16	20	144

環境のために

製品ができるまで (2005年度)

※【 】内は2004年度実績

INPUT

原材料

油糧種子類・購買油
201万t 【 215 】

資材

ガラス： 1,902t 【 1,616】
プラスチック： 9,648t 【10,163】
金属類： 11,189t 【12,142】
紙類： 11,838t 【11,464】

開発



商品開発

お客様からの商品に対するお問い合わせ、品質に関するご指摘やご意見などの貴重な情報は速やかにデータベース化し、市場ニーズに合った新商品開発や商品の改良に取り組んでいます。

調達



サイロ

海外から大型船で運ばれてきた原料は、アンローダーで直接サイロへ運び、原料を品種別に保管します。

主な廃棄物 ● 茎
ダスト

生産 (横浜磯子)



搾油

菜種など油分の多い原料は、加熱し、圧力をかけて含まれている油の60~70%を搾り出します。その後、抽出工程に送ります。油分が少なく圧搾工程のない大豆は、連続抽出機で油分を抽出します。

主な廃棄物 ● 茎
廃パライト

低NOxバーナー、脱硝装置、
運転管理など

分別、脱水、乾燥等による減量化など

OUTPUT

排ガス

CO₂ : 201,300t 【 205,987】
NOx : 213t 【 225】
SOx : 31t 【 45】

最終埋立となる処理への委託
委託量： 131t 【416】

エネルギー

電気 (買電) : 3,922万 kWh [3,283]

都市ガス : 3,823万 m³N [3,720]

A 重油 : 3,588 kl [5,188]

C 重油 : 32,232 kl [33,878]

水

上水・工業用水 : 244万m³ [248]

海水 : 913万m³ [824]

事業場・名古屋工場・堺事業場・水島工場)



精製

充填

搾油された油を遠心分離機にかけ、不純物を取り除き、更に活性白土を加え脱色します。脱色した油を冷却し、ロウ分や固体脂を取り除き、冷やしても、くもりにくい油にします。その後、高温、高真空の塔の中で、油の中に水蒸気を吹き込み、風味や泡立ちなどに影響する成分を取り除き製品油を作ります。

製品油は品質を確保するために、窒素ガスの入ったタンクに貯蔵します。その後、厳しい品質検査の後に缶、びん、プラスチックなどの容器に充填します。

主な廃棄物 ● 廃プラスチック
廃缶
廃ダンボール

主な廃棄物 ● 廃白土
廃パーライト
汚泥 油滓

197万t
(214)

製品・油粕・可食油

物流



出荷

コンベアで運び込まれた製品はコンピュータ制御された自動倉庫に保管されます。その後、トラックで配送します。

販売



お客様へ

常にお客様のニーズに応える多彩な商品を提供し、食生活の向上に貢献してきました。無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを提供し続けていきます。

肥料化、塗料原料化、燃料化など

分離・ろ過、微生物処理、凝集沈殿処理など

再資源化 31,780t [29,335]

※工場内で、サーマルリサイクルに利用された廃棄物(2,138t)を含む。

排水 323万m³ [339]

※集計範囲：横浜磯子事業場、名古屋工場、堺事業場、水島工場の生産工程

環境のために

環境に関わる事業・商品開発

「植物のチカラ」を食用油以外の分野に活かす。
そのための新体制づくりを進めています。

環境に配慮したさまざまな技術や商品を開発してきた私たちは、そのノウハウと経験をさらに新しい方向へ拡大しようとしています。「植物のチカラ」を活かした新たな用途を開発するために「エコリオグループ」を設置しました。この取り組みは、環境における私たちのCSRの新展開です。

植物種子の新たな可能性を探索

植物種子には食用油などの食品分野以外にもさまざまな用途が考えられ、用途開発、技術開発次第で新たな市場を開拓する可能性を秘めています。たとえば、植物油は「バイオディーゼル」として燃料化することができます。日清オイリオグループは、こうした豊かな「植物のチカラ」に着目し、植物種子の新たな領域を「エコリオ」と命名しました。この取り組みは優れた加工技術によって環境に配慮した付加価値の高い商品を開発することで社会的責任を果たすものであり、日清オイリオグループのCSRの一環として位置づけられます。現在、社内に「エコリオグループ」を設置し、中長期的な視点でのコアとなる技術を形成するためのアクションプランの作成を進めております。

● バイオディーゼル燃料

バイオディーゼル燃料は再生産可能な資源であり、植物の生育過程でCO₂を吸収することから温室ガス削減に貢献できます。加えて、排ガス中の粒子状物質やSO_xを減少させる燃料としても評価されています。日清オイリオグループは、これまでアルカリ触媒を用いる化学法、酵素を用いる方法など、さまざまな反応方法を研究してきました。「地域コンソーシアム」での共同研究、京都市バイオディーゼル燃料化事業への参画などの試験的活動を行ってきましたが、今後は軽油に添加するなどの将来的なニーズに合わせて柔軟に対応できる体制を整えていきます。

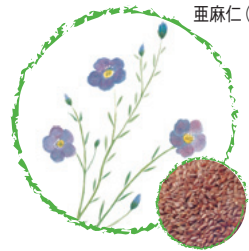


パイロットプラント

大豆



亜麻仁 (フラックス)



なたね (キャノーラ)



パーム

● エコメイトAR-1、CR-1

AR-1は植物油に安全性の高い界面活性剤を配合したアスファルト合材付着防止油です。従来、アスファルト合材の付着防止には、軽油や重油が使われてきましたが、AR-1は生分解性が高く環境への負荷が少ないこと、有害物質を含まないため生態系への影響が少ないことなどが高く評価されています。CR-1はこの技術をコンクリート型枠剥離剤に応用した製品です。

この技術は、公共工事のコスト低減、品質・安全の確保、環境保全などを図る新技術の情報を提供する国土交通省のデータベース「新技術情報システム」(NETIS)に登録されており、インターネットにて新情報を入手することができます。



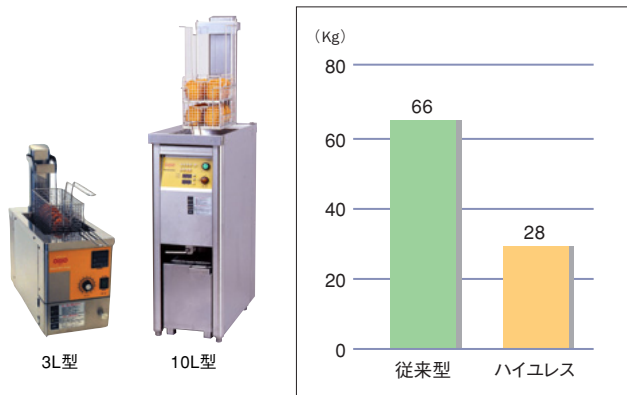
その他の環境配慮型商品・技術

●ハイユレスフライヤー

ハイユレスフライヤーは、10リットルの油量で18リットルのフライヤーと同等の揚げ能力を持った効率の高いフライヤーです。しかも、油槽を縦長とした省スペース設計により、油面の面積を18リットルのフライヤーの約30%としているため、空気による油面の酸化を防止でき、油面から熱が逃げにくく、過剰加熱による油の劣化も防ぐことができます。

使用する油量が少ないこと、油の酸化・劣化が防げることから、従来のフライヤーに比べて廃油量を大幅に削減でき、揚げ数量が多ければ無廃油も実現することができます。2005年度現在、レストラン、カレーショップ、ベーカリーなどを中心として徐々に導入例が増えつつあります。

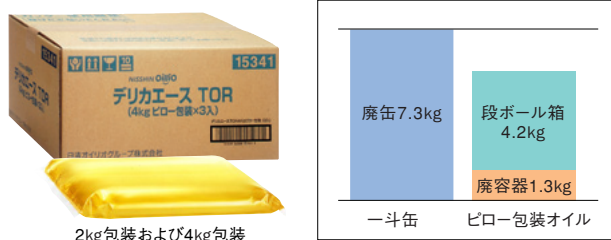
[1ヶ月の廃油発生量(コロッケ専門店の例)]



●ピロー包装オイル

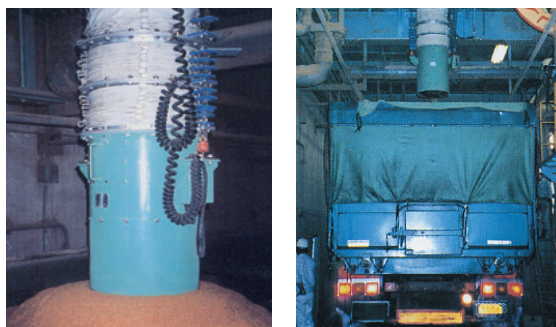
透明なプラスチックフィルム製の容器に油を充填したピロー包装オイルを、包装資材メーカーと共同で開発しました。一斗缶に比べて廃容器量が大幅に減少します。軽くて持ちやすく、取り扱いが楽な上、小容量であるため油の使用量管理も容易になっています。一斗缶からの買い替え需要が多く、2005年度の販売実績は増加しています。

[フライ油100kg使用時の廃容器量]



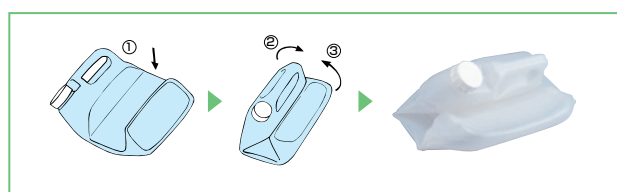
●むじん(ダストレスローダー)

大豆粕、菜種粕、コーン、大麦など穀物類の粉粒体をトラックや船舶にバラ積みする際の粉塵発生を抑制するローダーで、現場の環境・衛生向上に貢献しています。



●セツククリーン コンク

6倍濃縮タイプの食器・野菜用中性洗剤で、1本で従来の1斗缶洗剤1.3缶分に相当するため経済的です。しかも、1/5にたたんで廃棄できる減容ボトルを採用しているため、容器ごみの発生量削減に貢献します。



1/5の大きさに小さくたたんで捨てられます

環境のために

地球温暖化防止の取り組み

エネルギー消費量の多い事業特性を認識し、CO₂排出削減の取り組みを積極的に推進しています。

私たちの事業活動の大半を占める製油関連商品の生産には、きわめて多くの電力や水、蒸気を消費します。このため、生産拠点では早くからエネルギーの効率化やCO₂排出量の削減に努めており、大きな成果をあげています。また物流部門ではモーダルシフト推進や共同配送の実施など積極的に取り組んでいます。

生産部門での2005年度取り組み

取り組み目標

生産工程の使用エネルギーについて「CO₂排出量原単位」
として2010年までに1990年対比で88%に改善する。

冷凍機変更による消費電力削減

横浜磯子事業場では、製造(脱臭)に使用する冷凍機を「レシプロ型」から「スクルー型」に変更しました。これにより、電力量あたりの冷却能力が約15%向上し、消費電力を低減することができました。また、レシプロ型に比べてクーリングタワー冷却水温度を低くできるため秋から春にかけて効率改善され、年間消費電力量を約8%削減することができました。



変圧器の変更による省エネ効果

横浜磯子事業場の一部では、現行の標準変圧器を、鉄芯の組成に改良を施した「トップランナー型変圧器」に変更しました。これにより、1000kVA(200V系動力回路)をモデルとした場合、現行変圧器と比べて約35%の省エネ効果が期待できます。

特別高圧変電設備の設置

名古屋工場において特別高圧変電設備を設置しました。これにより電力会社からの受電能力が増加したため、電力需要の多い時期以外はディーゼル発電機を停止させることが可能になり、重油使用量、CO₂排出量の削減を図ることができます。



自治体との協定を締結

2006年3月、横浜磯子事業場では横浜市との間で「環境保全協定」を締結しました。環境負荷の一層の低減を図ることを目的として、大気汚染、水質汚濁、騒音防止、土壌汚染、緑化など15項目に亘る協議を行い、相互に連携をとりながら推進していくことを取り決めました。なお、他の生産拠点でも、早くから地元自治体との協定を締結した上で自主的な環境保全対策を推進しています。



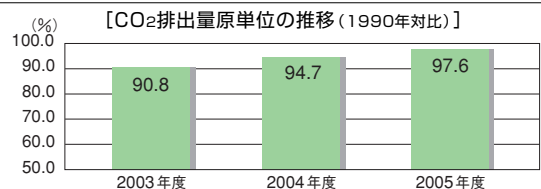
汚濁、騒音防止、土壌汚染、緑化など15項目に亘る協議を行い、相互に連携をとりながら推進していくことを取り決めました。なお、他の生産拠点でも、早くから地元自治体との協定を締結した上で自主的な環境保全対策を推進しています。

[各拠点における自治体との協定内容]

生産拠点	協定名	締結先	締結年
横浜磯子事業場	環境保全協定	横浜市	2006
名古屋工場	公害防止協定	名古屋市	1971
	大気汚染発生施設および工場排水、総合排水の測定項目、測定頻度の協定	名古屋市	2000
水島工場	公害防止協定	倉敷市	1973

評価と今後の展望

2004年度に比べCO₂排出量(P.48参照)は削減できましたが、原料品質の変動に伴う蒸気使用量の増加、生産部門の稼働状況等が影響し、CO₂原単位は上昇しました。今後の展望として、一部生産拠点での燃料転換の検討を進めるなど、2010年削減目標達成を目指していきます。



〈原単位計算の前提条件〉

※管理対象を生産工程(国内)とします。

※原単位の計算方法は、次の算式による(日清オイリオグループの規定)。

CO₂排出量原単位 = [使用エネルギーのCO₂換算値] / ([原料処理量] + [精製原料油処理量])

使用エネルギー: 生産工程で使用するエネルギー

原料処理量: 抽出工程に投入する原料の量

精製原料油処理量: 精製工程以降に投入する中間製品油の量

CO₂換算値: 各エネルギーをCO₂換算係数により換算して加算したもの

CO₂換算係数: 「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)および「電気事業連合会の電気の使用に伴うCO₂排出係数」を使用

※生産工程でのエネルギー使用量については、製油事業以外のエネルギーも含めて原単位計算を行っています。今後、製油事業以外の寄与が大幅に増加した場合等では必要な修正を行います。

物流部門での2005年度取り組み

CO2排出量削減への取り組み

日清オイリオグループは物流における環境負荷低減に取り組み、輸配送時のCO2排出量の削減に努めています。

<モーダルシフトの推進>

トラック配送に比べCO2排出量が少なく大量輸送が可能な鉄道や船舶に輸配送の手段を切り替える「モーダルシフト」を推進しています。2005年度の食品パッケージ品の拠点間輸送でのモーダルシフト率は46.5%と前年に比べ1.7%向上しました。

○エコルールマークを取得

2005年9月、日清オイリオグループは(社)鉄道貨物協会が認定する「エコルールマーク」を取得しました。エコルールマークは物流において鉄道貨物輸送を一定割合以上利用している商品・企業が認定されるもので、一般消費者の皆様にとって、CO2削減、環境負荷低減に取り組んでいる企業であることが判断できる指標の一つです。



<配送車両の削減>

配送ロット規定や納入先限定などの取引条件と連携した物流の標準化を進めています。小ロット配送をなくし、1回あたりの配送ロットを上げるなど配送車両、納品回数の削減を目指します。また、バルク油配送においてはミニローリー車での計画補充(CRP)方式を導入しています。

<製造拠点の変更>

商品ごとに消費地に一番近い拠点で生産するなど消費と生産を連動させることにより、遠隔地配送を削減し、配送距離を短縮しました。また工場直配、無在庫配送方式の促進により輸配送で扱う数量を必要最小限度のものとし、非効率配送を削減しました。

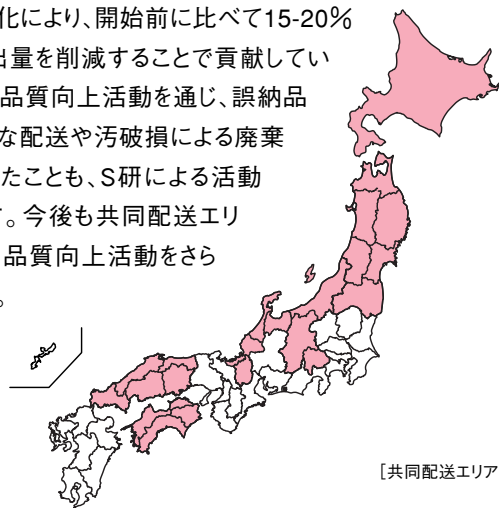
<物流品質の向上>

物流品質を向上し、再配送、緊急出荷などの非効率配送の発生原因となる誤納品、汚破損、延着などの物流異常の削減を推進しています。2005年度の物流異常発生率は153ppmでした。2006年度は100ppm以下を目標とします。

食品加工メーカー共同配送の実施

1995年2月にカゴメ(株)様、ミツカングループ様、日清オイリオグループ(当時日清製油)の3社による「食品加工メーカー共同配送研究会(S研)」を発足し、1996年の東北を皮切りに新潟、中国、四国、長野山梨、北陸、滋賀、北海道と共同配送エリアを拡大してきました。S研では、①得意先への配送時の物流品質・物流サービスの向上、②社会環境への貢献、③得意先での荷受業務の効率化、④物流合理化によるコストダウンの4つを目的に活動しており、これまでの導入エリアでも目的通りの成果を挙げております。

例えば社会環境へは、共同配送エリアにおいて納品車両の減少・大型化により、開始前に比べて15-20%のCO2排出量を削減することで貢献しています。また、品質向上活動を通じ、誤納品による無駄な配送や汚破損による廃棄品を削減したことも、S研による活動の効果です。今後も共同配送エリアの拡大と品質向上活動をさらに進めます。



評価

2005年度の食品パッケージ品拠点間輸送CO2排出量は前年比約12%の増加となりました。物流構造の変化により拠点間輸送の移動総重量が約29%増加したとはいえ、結果としてモーダルシフト率向上の効果が十分に活かせませんでした。

今後の展望

2005年度は会社合併後の統物流が完成し、配送方法も内容が大きく変わりました。また物流関連データも、システム統合により一元化でき、より精度の高い管理が可能となりました。従来から2004年度対比3%削減としていた2007年度の食品パッケージ品拠点間輸送におけるCO2削減目標を、今まで以上に詳細な分析を行うことで推進してまいります。

2006年4月からは改正省エネルギー法が施行されます。食品加工メーカー共同配送のエリア拡大を推進するなど、活動、成果とも更に充実したものを目指してまいります。

環境のために 廃棄物削減の取り組み

省資源、再使用、再資源化の3Rによる ゼロエミッションを目指して工夫を重ねています。

私たちの生産拠点では、種類、量ともにきわめて多くの廃棄物が発生しています。このため、廃棄物の発生量を削減するとともに、これを有効に活用するさまざまな取り組みを進め、環境負荷低減に努めています。また3Rに関する取り組みも容器包装の継続的な改善を通して積極的に進めています。

生産部門での2005年度取り組み

取り組み目標

2010年までに生産工程でゼロエミッションを達成する。

日清オイリオグループのゼロエミッションの前提条件

- ・管理対象:生産工程(国内)
- ・ゼロエミッションの定義:最終埋立て処分量を1%未満
- ・対象:通常の生産活動およびメンテナンス等で発生する廃棄物

継続的な取り組み

以下の取り組みについては、継続的に推進しています。

<廃棄物削減>

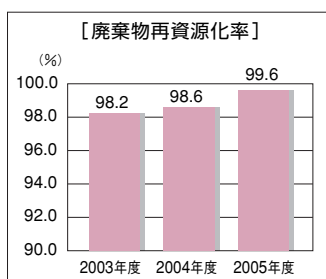
- 廃水処理場から発生する汚泥を脱水機、乾燥機により減量化(各生産拠点)
- 廃油や可燃廃棄物を廃熱回収型焼却炉で焼却、減量化(横浜磯子事業場)
※焼却炉から発生するダイオキシン類については、法規制に従い管理し、問題がないことを確認しております。

<廃棄物再資源化>

- 汚泥を肥料化し、肥料登録を実施(横浜磯子事業場)
- 牧場の牛糞等の発酵促進として廃白土を使用、肥料化の補助剤として再資源化(各生産拠点)
- 廃プラスチックを焼却せずに分別・減容圧縮し、固形燃料化するサーマルリサイクル(横浜磯子事業場、堺事業場)

評価と今後の展望

2005年度の再資源化率は、各生産拠点の取り組みにより99.6%となり、2004年度より1.0ポイント上昇し、目標を達成しています。今後は、より有効な廃棄物の再資源化方法の検討を継続していきます。



大気汚染物質の管理

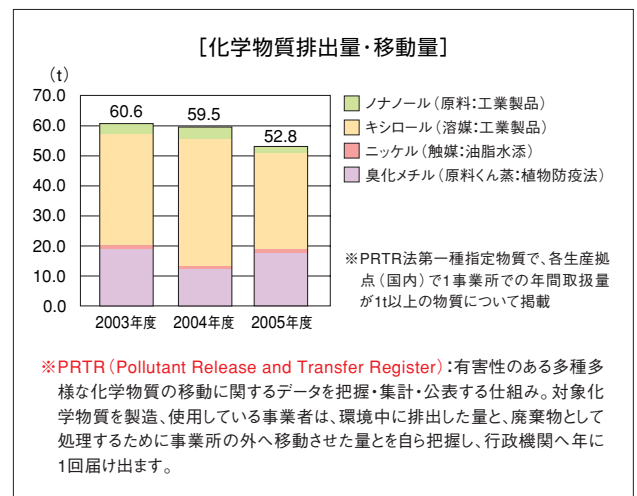
- ボイラー排出ガスのO₂を管理し、低酸素燃焼させることによるNO_xの低減(各生産拠点)
- 低NO_xバーナーの採用によるNO_xの低減(各生産拠点)
- アンモニアを使用した脱硝装置の設置によるNO_xの低減(横浜磯子事業場、名古屋工場)
- 脱硫装置に水酸化マグネシウムを使用した吸収塔を採用し、SO_xを低減(名古屋工場、水島工場)
- 大気汚染物質を常時監視して環境基準値を遵守(各生産拠点)

水質汚染物質の管理

- 廃水処理設備の維持・管理(各生産拠点)
- 窒素・リン連続監視装置による水質汚染物質の管理(各生産拠点)

化学物質の管理

各生産拠点で使用する化学物質については、法規制に基づいて適正な管理を行っており、購入量と使用量の管理を徹底しています。各生産拠点で扱うPRTR法第1種指定物質の排出量・移動量は以下の通りです。また、PCBについても保管場所を決め、適正な管理を実施しています。

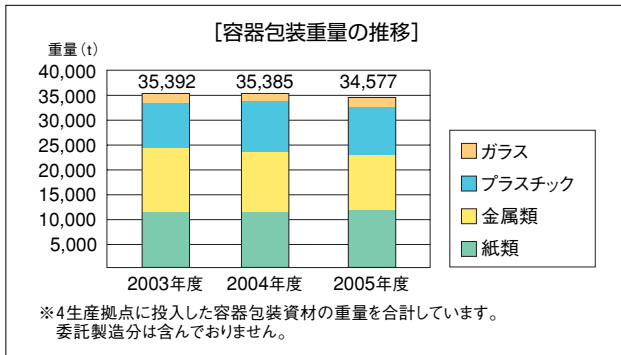


容器包装における取り組み

容器包装の絶えざる改善

日清オイリオグループは、食用油業界のリーディングカンパニーとして容器の減量化、再資源化などの取り組みを進めております。容器の改善については引き続き積極的に推進しており、2005年度は「ヘルシーリセッタ600g PETボトル」に生分解性のキャップシールを採用するなど、環境に配慮した取り組みを自主的に行っています。また容器減量化についても着実な成果をあげています。

お客様の声を反映した容器の改善例につきましてはP.24をご参照ください。



化粧箱へ的大豆油インキの使用

ギフト製品などに利用される化粧箱ふたの印刷には、環境負荷の少ない大豆油インキを使用しています。



物流における省資源・再利用の推進

省資源ロジスティクス実現に向けて取り組みを行っています。ローリーおよびミニローリー配送による脱容器化とともに、1トンコンテナの循環利用による容器の再利用を推進しています。2005年度は両方式による配送量が一斗缶換算で1,100万缶におよびました。そのほか従来からドラム缶に、また最近では加工油脂用の組み立てコンテナにレンタル方式を導入し、配送における容器の再利用を進めています。

容器包装の主な取り組み事例

1998年度	キャップシール・シュリンクラベルの材質改善 ギフト化粧箱の仕切改善 ごま油瓶の軽量化 ごま油外函仕切の簡略化 ごま油のキャップ・ラベルに分別機能を付加 ギフト缶の胴部内面塗装の廃止	PVC→PET 40t/年削減 120t/年削減 50t/年削減 — —
1999年度	ギフト化粧箱に折り畳み機能を付加(たためるBOX) ギフト缶の天地ふた内面塗装の廃止 業界初の折り畳み機能付大型ポリボトル開発	90%減容 — 60%減容
2000年度	ピロー容器入り業務用食用油の導入	64t/年削減
2001年度	1500gポリボトルで減量化、減容化を実施	450t/年削減
2002年度	ギフト製品にボトル缶を採用 小型瓶に新分別ワンピースキャップを採用	91t/年削減 —
2003年度	ギフト製品化粧箱の両面カラーライナー採用による包装資材節減 700gポリボトルの減量化	43t/年削減 29t/年削減
2004年度	ギフト化粧箱ふたの印刷に大豆油インキを使用 PETボトル用キャップの改良、軽量化 折り畳み機能をもった取手付新型1000gポリボトルの開発 ドレッシング瓶の軽量化	— 9t/年削減 50%減容 78t/年削減
2005年度	ギフト製品にシリカ蒸着PETボトルを採用 600gPETボトルのラベル材質を紙からPPに変更(剥離性の向上) ヘルシーリセッタ600gのキャップシールに生分解性プラスチックを採用	賞味期限1年⇒1.5年に改善 — —

環境のために

管理部門での環境活動

細かな工夫を重ねて、オフィス用紙や電気使用量の削減に努めています。

オフィスの電気使用量、紙の使用量を低減するためには、従業員一人ひとりが高い環境意識を持ち、日常業務の中で小さな努力を積み重ねていくことが大切です。管理部門では、従業員の啓発に始まる地道な活動を通じて、紙資源リサイクルとペーパーレス化、電気使用量削減に顕著な成果をあげています。

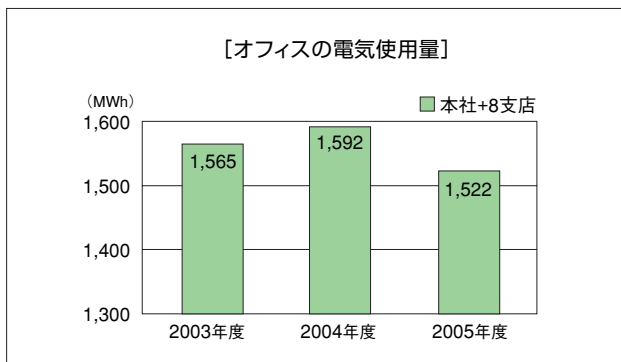
管理部門での2005年度取り組み

2005年度、管理部門では、従業員の環境意識づくりと、活動を効果的に推進するための体制づくりに主眼を置いて環境活動を行いました。

環境意識づくりについては、インターネット、イントラネットを利用した学習方法や社内定期刊行物への環境情報掲載などを通じて、環境についての情報・知識を入手できる仕組みを検討しました。体制づくりについては、「オフィス環境保全活動推進体制(案)」を策定し、推進リーダー、担当者、事務局の役割を明確化しました。また、電気使用量・廃棄物・水道使用量の削減、グリーン購入、営業車等の運行など実際の活動実施ガイドラインとして「オフィス環境活動ガイドライン(案)」を策定しました。

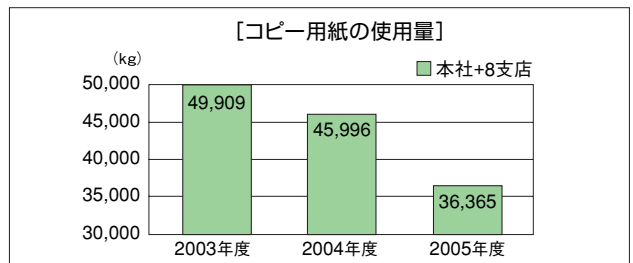
電気使用量の削減

- 目標:2006年度までに、オフィス電気使用量を2003年度比10%削減
- 活動内容:
 - 夏期における「クールビズ」実施
 - 本社ビルにて退社時の照明・エアコンのスイッチオフ徹底
 - 共有部分(通路、トイレ等)照明の自動消灯時刻繰り上げ
 - パソコンの一斉更新に合わせて、強制的に省エネルギーモードを設定
- 実績と評価:2005年度のオフィス電気使用量は2004年度比で4.4%減少しましたが、目標の2003年度比では2.7%の減少にとどまりました。



コピー用紙使用量の削減

- 目標:帳票の見直し、電子化、データベース化、両面コピーの推奨等による使用量の削減
- 活動内容:
 - 合併によるシステム統合により帳票類を大幅に削減
 - 従業員への両面印刷・割付印刷方法の周知徹底
 - 会議資料、保管資料などの両面コピーの徹底
- 実績と評価:2005年度のコピー用紙使用量は2004年度比20.9%と大幅に減少しました。



ゴミの削減

- 目標:分別化、減量化によるゴミ排出量の削減
- 活動内容:
 - 紙ゴミをコピー用紙、トイレトーパー、段ボールに再生するため、紙資源リサイクルを徹底
 - カタログ、冊子類の適正在庫管理による廃棄物削減



ゴミの分別回収ボックス

今後の展望

2005年度の活動を通して、従業員の環境に対する意識は向上しつつあります。今後は環境活動組織体制の構築や環境活動ガイドラインの運用により、系統的・持続的な環境活動の推進と、従業員のさらなる意識向上に努めます。また、グリーン購入については、各事業所を含め全社的に取り組むべき課題であると考えています。

環境のために

環境関連投資・費用・効果

環境関連投資について

日清オイリオグループは1990年代に入り、従来の公害防止対策主体から地球温暖化防止対策や産業廃棄物削減対策を念頭に置いた取り組みへ力点を移し、更なる環境対応設備

投資を積極的に行ってまいりました。その結果、生産部門での省エネルギー、物流効率化、資材の節減等において大きな成果を挙げております。

環境会計について

環境に対する投資・費用やその効果を集計し、投資家をはじめとする皆様へ情報公開を行うとともに、自社への環境への各種施策の効果測定を行うことが重要であるという考えから、環境会計への取り組みを行っております。今後、社会的基準

の確立を睨みながら、当社の基準の修正を行うとともに、環境効果把握とコストバランス評価を行い、効果的な環境施策の実施へと繋げていく予定です。

[環境保全コスト]

単位：百万円

環境保全コスト分類		投資額		費用	
分類	主な取り組みの内容およびその効果	2004年度	2005年度	2004年度	2005年度
1. 事業エリア内コスト		134	415	1,005	1,007
①公害防止コスト	大気汚染防止/水質汚濁/悪臭防止	55	27	353	402
②地球環境保全コスト	温暖化防止/オゾン層破壊防止/省エネルギー	11	289	190	158
③資源循環コスト	産業廃棄物の減量化、削減、処理、処分/ 事業系一般廃棄物の減量化/削減、処理、処分	68	100	462	446
2. 上・下流コスト	容器・包装等のリサイクル/回収・再商品化/製品等の設計変更	—	—	253	331
3. 管理活動コスト	社員への環境教育/ISO14001プロジェクト/環境対策の件費	10	—	70	91
4. 研究開発コスト	環境保全に資する製品等の研究/開発に関わる件費	—	—	55	55
5. 社会活動コスト	事業所内および周辺の緑化、美化、景観等の環境改善対策	—	—	—	7
6. 環境損傷対応コスト		—	—	12	15
合計		144	415	1,395	1,505

※集計の前提条件 ①集計値は各年度(4月～3月)の実績
②費用分類は「環境会計ガイドライン(2005年版)」に準拠
③環境関連として確実な投資や費用(他の要素をほとんど含まず)の範囲に留めている。

環境保全効果

[エネルギー使用量低減効果]

	単位	2004年度	2005年度	増減	前年比(%)
電気(買電分)	万kWh	3,283	3,922	639	119.5
A重油	kl	5,188	3,588	△1,601	69.1
C重油	kl	33,878	32,232	△1,646	95.1
都市ガス	千m ³ N	37,199	38,225	1,026	102.8
換算CO ₂	t	205,987	201,300	△4,687	97.7

[廃棄物排出低減効果]

	単位	2004年度	2005年度	増減	前年比(%)
廃棄物等の排出(最終埋立処分量)	t	416	131	△285	31.6

[環境投資による経済的効果]

環境保全対策に伴う経済効果		
費用節減	効果の内容	金額(百万円)
	省エネルギーによるエネルギー費の節減	30

※数値は全て横浜磯子事業場、名古屋工場、堺事業場、水島工場の合算値
※「廃棄物等の排出」は産業廃棄物および特管物の発生量より再生分を差し引き、最終的に埋立て処分を行った数量。
※「省エネルギーによるエネルギー費の節減」の金額は「エネルギー使用量低減効果」における各エネルギーの使用量削減に基づいた節減額。

環境のために

生産部門の概要

堺事業場の主な概要

西日本地区の生産拠点として1999年に稼働を開始した堺事業場は、最大2万トン級の船が接岸できるバースを保有しております。受け入れた原料油や製品油などは事業場内のタンク及び隣接しているグループ会社のタンクに保管されます。原料油等は小ロットから大ロットまで最新の管理システムを取り入れた精製工場、充填工場で製品化され物流倉庫に搬送、保管後、出荷されます。また、業務用製品はローリーやコンテナ等で出荷されていきます。



堺事業場

項目		2003年度	2004年度	2005年度
CO ₂ 排出量 (t)		7,430	7,618	7,978
産業廃棄物 (t)		8,787	8,106	10,175
最終埋立処分量 (t)		18	50	45
再資源化率 (%)		99.8	99.4	99.6
大気	NO _x (t)	5	8	7
	SO _x (t)	0.0	0.0	0.0
水使用量 (上水・工水) m ³		61,192	76,913	88,226
排水	COD (t)	1	1	1
	リン (t)	0.0	0.0	0.0
	窒素 (t)	0.3	0.4	0.3

所在地 …… 大阪府堺市
敷地面積 …… 29,100m²
サイロ …… なし
食用油充填ライン …… 10ライン

使用燃料 …… 都市ガス
廃棄物処理施設 …… 脱水機 (廃水処理場)
ばい煙発生施設 …… ボイラー
特定施設 …… 洗浄施設・分離施設

水島工場の主な概要

水島工場は瀬戸内海に面した倉敷市に立地し、6万5千トン級の大型外航船が接岸でき、瀬戸内海の環境保全に配慮したより厳しい法規制のもとで操業しています。世界各地から集まってくる大豆や菜種をおいしい油に「育てる」ために一貫した搾油・精製・充填設備を完備し、自然の恵みを100%活かすために必要なあらゆる設備を擁しています。



水島工場

項目		2003年度	2004年度	2005年度
CO ₂ 排出量 (t)		56,327	54,187	50,402
産業廃棄物 (t)		8,128	5,765	5,586
最終埋立処分量 (t)		130	145	45
再資源化率 (%)		98.4	97.5	99.2
大気	NO _x (t)	67	52	52
	SO _x (t)	23	24	16
水使用量 (上水・工水) m ³		545,795	511,332	517,066
排水	COD (t)	5	4	4
	リン (t)	0.7	0.2	0.1
	窒素 (t)	1	1	1

所在地 …… 岡山県倉敷市
敷地面積 …… 113,800m²
サイロ …… 54,340t (大豆換算)
食用油充填ライン …… 5ライン

使用燃料 …… A重油、C重油
廃棄物処理施設 …… 脱水機 (廃水処理場)
ばい煙発生施設 …… ボイラー
特定施設 …… 洗浄施設・分離施設
湯煮施設など



横浜磯子事業場の主な概要

横浜磯子事業場は、6万5千トン級の大型外航船が接岸できるバース、11万トンの原料（大豆換算）を保管するサイロを擁し、製油を中心に原料輸入・搾油・精製・製品出荷までの一貫生産を行っています。また、ファインケミカル、食品蛋白などの事業部門を擁し、市場のニーズにこたえた新しい価値を生み出す生産機能と、自動保管倉庫などの物流機能、開発機能などもあわせ持つ複合事業体として進化し続けています。



横浜磯子事業場

項目		2003年度	2004年度	2005年度
CO ₂ 排出量 (t)		78,493	73,887	76,258
産業廃棄物 (t)		8,582	9,962	9,699
最終埋立処分量 (t)		213	95	12
再資源化率 (%)		97.5	99.0	99.9
大気	NO _x (t)	89	81	69
	SO _x (t)	8	8	5
水使用量 (上水・工水) m ³		1,371,262	1,292,410	1,256,868
排水	COD (t)	21	27	23
	リン (t)	1.5	0.2	0.2
	窒素 (t)	3	4	4

所在地 …… 神奈川県横浜市
 敷地面積 …… 233,000m²
 サイロ …… 111,000t
 食用油充填ライン・15ライン
 使用燃料 …… 都市ガス
 廃棄物処理施設 …… 焼却炉・脱水機 (廃水処理場)
 ばい煙発生施設 …… ボイラー・ガスタービン・焼却炉
 特定施設 …… 洗浄施設・焼却施設・蒸留施設・浄化槽など

名古屋工場の主な概要

中部地区の生産拠点として名古屋工場は名古屋港の中央部に位置し、最大7万7千トンの大型外航船の接岸ができるバースを持ち輸入原料の荷揚げから搾油・精製・製品の出荷までを行っています。最新鋭の設備を駆使したラインは自動化され、優れた技術と厳しい品質管理のもと、高品質の製品を日夜送り出しています。



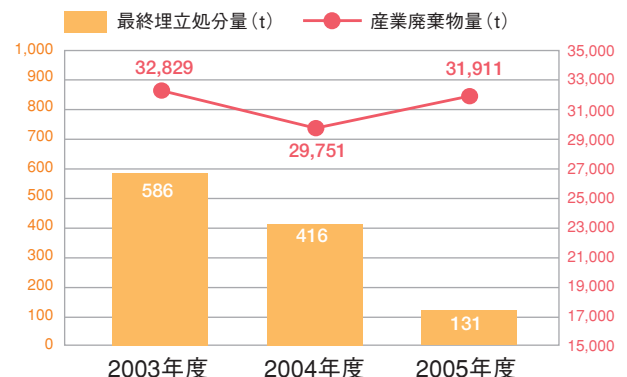
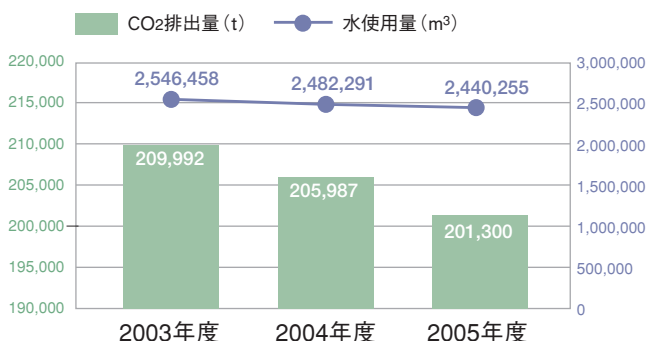
名古屋工場

項目		2003年度	2004年度	2005年度
CO ₂ 排出量 (t)		67,742	70,294	66,661
産業廃棄物 (t)		7,332	5,918	6,451
最終埋立処分量 (t)		225	126	30
再資源化率 (%)		96.9	97.9	99.5
大気	NO _x (t)	93	84	84
	SO _x (t)	16	14	10
水使用量 (上水・工水) m ³		568,209	601,636	578,095
排水	COD (t)	34	35	26
	リン (t)	1.3	1.2	0.6
	窒素 (t)	5	6	6

所在地 …… 愛知県名古屋市
 敷地面積 …… 98,800m²
 サイロ …… 74,500t
 食用油充填ライン・9ライン
 使用燃料 …… A重油、C重油
 ばい煙発生施設 …… ボイラー・ディーゼル発電機など
 特定施設 …… 焼却炉
 廃水処理装置
 浄化槽など

4生産拠点TOTAL

4生産拠点のCO₂排出量、産業廃棄物量、最終埋立処分量、水使用量をグラフにしました。



CSR活動のあゆみ

	主 な 項 目	環 境 報 告 書 / CSR 報 告 書
1990年 以前	お客様相談窓口の設置 安全・防災会議の設置 横浜磯子春まつりを毎年開催 神奈川マラソンに協賛 ベルマーク運動に参画	
1991年	「環境問題委員会」発足	
1993年	「環境理念」「環境方針」策定	
1995年	生活科学研究室の第1回報告書発行 横浜磯子事業場にガスコージェネレーション設備を導入	
1996年	食品企業3社による共同配送スタート	
1997年	語学研修制度導入	
1998年	日清製油(株)ISO9001認証取得	
1999年	環境保全への取り組みレポート作成・配布 名古屋工場ISO9002認証取得 水島工場ISO9002認証取得	
2000年	経営理念の制定 「品質・環境マネジメント委員会」発足 横浜磯子事業場ISO14001認証取得 プロフェッショナル人事制度導入	初めての環境報告書 「日清製油環境報告書2000」を発行
2001年	情報セキュリティ規程の制定 大連日清製油有限公司ISO9001認証取得	「日清製油環境報告書2001」発行
2002年	日清製油(株)、リノール油脂(株)、ニッコー製油(株) の3社が経営統合し、日清オイリオグループ誕生 日清オイリオグループ行動規範の制定 張家港統清食品有限公司ISO9001認証取得	「日清製油環境報告書2002」発行
2003年	企業倫理委員会発足 企業倫理ホットラインを設置 堺事業場ISO14001認証取得 堺事業場にガスコージェネレーション設備を導入 名古屋工場ISO14001認証取得 特定保健用食品、体に脂肪がつきにくい「ヘルシーセッタ」を発売	「日清オイリオグループ 環境報告書2003」発行
2004年	日清オイリオグループ(株)、日清オイリオ(株)、リノール油脂(株)、 ニッコー製油(株)の4社が合併して、新生・日清オイリオグループ(株)がスタート リスクマネジメント委員会発足 防災基本規程の制定 水島工場ISO14001認証取得 中国品質保証委員会発足 特例子会社「日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社」を設立 リセッタによるコラボレーション商品開発スタート	「日清オイリオグループ 環境報告書2004」発行
2005年	CSR基本方針の策定 CSR委員会発足 内部統制構築に着手 個人情報保護方針を制定 定年退職者再雇用制度の策定 ISO9001の全社統合認証取得 上海日清油脂有限公司ISO9001認証取得 上海に統括技術センター設置 (財)日本オリンピック委員会(JOC)とオフィシャルパートナーシップ締結 携帯電話でのIR情報配信開始	「日清オイリオグループ 環境報告書2005」発行
2006年		初めてのCSR報告書 「日清オイリオグループ CSR報告書2006」を発行

第三者所感

株式会社トーマツ
環境品質研究所
代表取締役社長
古室正充



日清オイリオグループ株式会社「CSR報告書2006」を拝見させていただき、第三者としての所感を述べさせていただきます。なお、本所感はCSR報告書に記載されている情報の正確性等につき、一般に公正妥当と認められる基準を判断基準として第三者審査意見を述べるものではありません。

2005年度も「食育基本法」の制定やBSE問題の長期化など「食」に関する大きな話題が相次ぎました。内閣府では、飽食時代における正しい食文化の教育をさらに充実させていく方向です。一方、日本は食糧自給率が低く、食糧の多くを輸入に頼っています。食を安心・安全に確保するというステークホルダーの関心は今後ますます高くなっていくものと思います。

日清オイリオグループ株式会社（以下、「日清オイリオグループ」という）が今回はじめて発行する「CSR報告書」は昨年までの「環境報告書」と比べて充実した内容になっていると思います。「食」を通じて「おいしさ・健康・美」を追求するという日清オイリオグループのコアコンセプトを明確に示しており、企業活動とCSR活動の一体化がされているかと思います。

2005年度は日清オイリオグループのCSR活動の節目の年として、方針や目標の設定、体制の整備など、日々の活動の中にCSR活動をつなげてきました。特にトップコミットメントで語られている「CSRとはあらゆるステークホルダーからの期待に応えること」という考え方のもと、確実な一歩を歩んでいることと思います。また、企業独自の「食」との関わりという観点にこだわりを持つ姿勢は、活動に確実に結び付けられようとしています。CSR活動は社員全員で行っていきものとする社長の考え方を新しい行動指針により具現化し、今後より強い活動に結びつけていただきたいと思います。

最大のステークホルダーである消費者の声を受け止め、製品や容器に活かす取り組み、食の安全を確保するための品質管理などの取り組みに関しては、食品衛生法に従い厳格に管理されています。2005年は品質保証制度を国内で統一するなど、強いこだわりをもって活動を実施されていると思います。環境保全の取り組みに関してもISO14001を積極的に取得され、目標管理制度のもと充実した活動になっていると思います。

一方で食品メーカーとして大きな社会問題である、原料の確保に関する情報やトレーサビリティについての記載が不足しているように思います。日清オイリオグループは業界トップシェアの企業として、社会と共生していくためにこれらの問題にどのように対応していくか、方向を示す必要があると思われます。

また、海外への積極展開を進められている中で、海外での取り組みについては記載が乏しいように思います。これから発展が期待される東アジア市場においては特に世界的に注目を集める地域であり、企業としてのあり方が様々な側面で問われるようになると思われるため、海外拠点におけるCSR活動をより活発にすることが課題といえます。また、「食」に関わる企業として「食」に関する社内外に向けての教育活動は、今後消費者の関心もより高くなってくるものと思います。教育活動の充実と、成果についての積極的な情報公開を期待しております。

2007年に創立100周年を迎えられるにあたり、社長が述べられている「CSR活動は1907年創立以来続けてきたことである」という考え方をより深く認識され、100年前には思い当たらなかったグローバル企業という責任ある企業としてより大きく発展されることを期待しております。

編集後記

昨年までの環境報告書からCSR報告書の発行となり、大幅なボリュームアップとなりました。そのため報告書を読まれる方にとって読みやすく分かりやすくすることに努めました。環境報告書2005（2005年6月発行）に対して、右記のようなご意見をいただきました。本CSR報告書作成にあたり、いただいたご意見を可能な限り反映するように努めました。

- CO₂排出量について総排出量も書いたほうがよい。
- 中・短期目標の具体的取り組みと実績報告がほしい。
- アンケートの回答内容の開示とコメントがほしい。
- 環境保全の取り組みにおいて将来予測値に触れたらどうか。

CSR報告書2006における重要な変更点

CO₂換算係数の変更や集計の誤りのため環境報告書2005で報告した数値を変更しました。なお、この修正により、これまでに報告しました改善実績が大きく異なるということはありません。

- 2004年度CO₂排出量および排出量原単位（CO₂換算係数の変更による）
- 2003年度および2004年度のコピー用紙の使用量